

松本市文化財調査報告 No.215

長野県松本市

殿村遺跡

—第4次発掘調査報告書—

2014.3

松本市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成24年度殿村遺跡調査事業に係る殿村遺跡第4次発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査から報告書作成まで、一連の作業は平成24・25年度国庫補助事業として実施し、現地における発掘調査は平成24年10月1日から同年12月26日まで実施した。
- 3 本書の執筆は以下の分担で行った。
第Ⅱ章第2節1・3：伊藤 愛、同第3節2：原田健司、同3：宮島義和、その他：竹原 学
- 4 整理作業および本書作成に係る作業分担は以下のとおりである。
遺物洗浄：内田和子、中澤温子
遺物実測：竹内直美（焼物）、原田健司（石器）
写真撮影：伊藤 愛・宮島義和（遺構）、竹原 学（遺物）
DTP：挿図トレース・レイアウト 伊藤 愛（遺構・焼物・木製品）、原田健司（石器）
写真図版レイアウト 伊藤 愛
全体構成 伊藤 愛
- 5 本書の中で使用した遺構の略称等は、以下のとおりである。
土坑→土、ピット→P、溝状遺構→溝
- 6 時代区分の表記のうち「縄文時代」については、松本市文化財調査報告書の記述方針に従い、「縄紋時代」としている。
- 7 焼物（土器・陶磁器）実測図における断面の塗り分けは以下のとおりである。
白色：縄紋土器・土師質土器、黒色：妬器（須恵器）・陶磁器、灰色：繊維含有縄紋土器
土師器（黒色土器）における黒色処理は灰色で示した。
- 8 奈良・平安時代の焼物の器種分類については、下記文献に従った。
（財）長野県埋蔵文化財センター『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4・松本市内その1・総論編』
- 9 図中で使用した方位は真北を示す。また遺構図中に示した国家座標値（世界測地系・第8系）は、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震以前の値で、地震変動に対する補正は行っていない。
- 10 調査から本書作成までの間、以下の方々から指導・助言・協力を得た。なお、調査指導委員等関係者については第Ⅰ章に記した。
赤澤徳明、阿部 来、市川恵一、遠藤公洋、河西克造、竹内靖長、北條芳隆、松本建速、望月道彦、横内文人、吉田恵二（敬称略）
- 11 本調査の出土遺物および写真・実測図等の記録類は、松本市教育委員会が管理し、松本市立考古博物館（〒390-0823 松本市中山3738-1 TEL0263-86-4710 FAX0263-86-9189）に保管している。

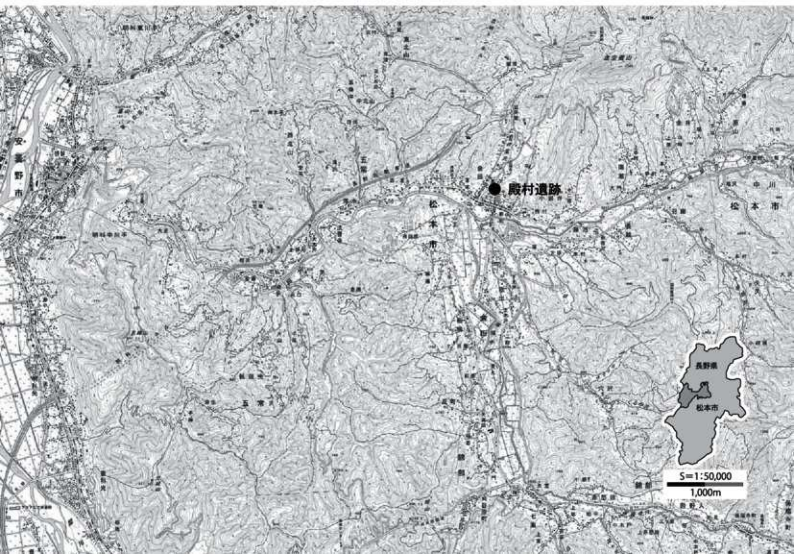
目 次

例 言

目 次

第1章 調査事業の概要	
第1節 事業の経緯	5
第2節 第4次調査の経過	7
第3節 調査体制	8
第II章 第4次調査の成果	
第1節 調査の目的と方法	9
第2節 遺構	
1 4A1 トレンチ	18
2 4A2 トレンチ	20
3 4C1 トレンチ	22
第3節 遺物	
1 焼物	33
2 石器・石製品	35
3 木製品	37
第III章 調査のまとめ	39
写真図版	
報告書抄録	
奥 付	

第1図 殿村遺跡の位置



第 I 章 調査事業の概要

第 1 節 事業の経緯

1 第 1 次調査と保存に至る経過

殿村遺跡は、松本市大学会田字殿村 536 ほかに所在する縄紋時代～中世の複合遺跡である。松本市教育委員会が平成 20 年に実施した四賀地区統合小学校（四賀小学校）建設に係る第 1 次発掘調査では、古代の集落跡との当初の予想に反して 15 世紀築造の石積を伴う大規模な中世の造成遺構が検出され、しかも 16 世紀にかけて数回にわたる拡張により生活面が複雑に重層する状況が確認された。

このことにより当初の調査期間は大幅に超過し、担当課である文化財課と学校教育課の間で再三にわたって協議を重ね調査期間の延長を図った。一方、良好に遺存する石積等の調査成果に次第に各方面からの注目が集まることとなり、保存要望も寄せられるようになった。そして、平成 21 年 7 月に至って四賀地区町会連合会から、「殿村遺跡保存及び四賀小学校早期建設に関する要望書」が提出されたことを受けて、松本市は遺跡の現地保存と学校建設地の移転を決定した。その後の調査は記録保存から保存目的の確認調査へと方針転換し、最後に保護砂の被覆等、遺構保護のための措置を講じて、平成 22 年 1 月に第 1 次調査が終了した。

2 調査指導委員会の発足と総合調査の計画

保存決定により、市教育委員会は文化庁および長野県教育委員会の助言を受け、平成 22 年度から専門家による殿村遺跡調査指導委員会を発足させ、その指導の下で遺跡の範囲や内容を明らかにし、性格を究明するための確認調査を継続的に実施していくことになった。

第 1 回調査指導委員会（平成 22 年 4 月開催）では、第 1 次調査の概要と保存に至る経過の報告、今後の発掘調査計画を示した。一方、各委員からは、殿村遺跡を取り巻く歴史的景観、とりわけ中世以前の虚空蔵山麓一帯に宗教空間が広がっていた可能性が高く、殿村遺跡はそこに所在する宗教施設のひとつではないかとの指摘を受けた。それを踏まえ、今後の調査は殿村遺跡の発掘調査だけでなく、宗教空間全体を対象とした総合的な調査を実施し、その中で遺跡の位置付けがなされるべきとの指導を得た。

3 殿村遺跡調査事業

そこで、市教育委員会はあらためて計画を見直し、発掘調査を軸とした総合調査として「殿村遺跡調査事業」を計画した。そこでは、遺跡（点）から地域・背景（面）へと視点を拡大させ、「殿村遺跡とは？」「会田御厨と会田氏」「殿村遺跡の前章～原始・古代の会田盆地」「虚空蔵山を中心とする信仰世界の形成」「道と宿場と集落が織りなす景観」「水と緑が織りなす虚空蔵山麓の景観」「松本市の中での殿村遺跡」をテーマに、発掘調査、城館跡調査、景観調査、社寺・信仰資料調査等を実施していくこととなった。また、事業の核となる殿村遺跡の発掘調査については、遺跡の全体像把握を目的に、特に①中世を中心とする遺構・遺物の広がりや保存状況の確認、② 1 次調査で検出された石積を伴う造成遺構の広がりや全体構造の把握、③ 遺構群の時間的・空間的位置付けと性格の解明を主眼に進めることとなった。

4 計画に基づく調査の実施

発掘調査実施計画では、南北約 400 m・東西約 300m に及ぶ遺跡推定範囲を A～E の 5 ゾーンに区割りし（第 2 図）、毎年、1 次調査区のある A ゾーンと他を組み合わせる調査を行うこととした。また、調査報

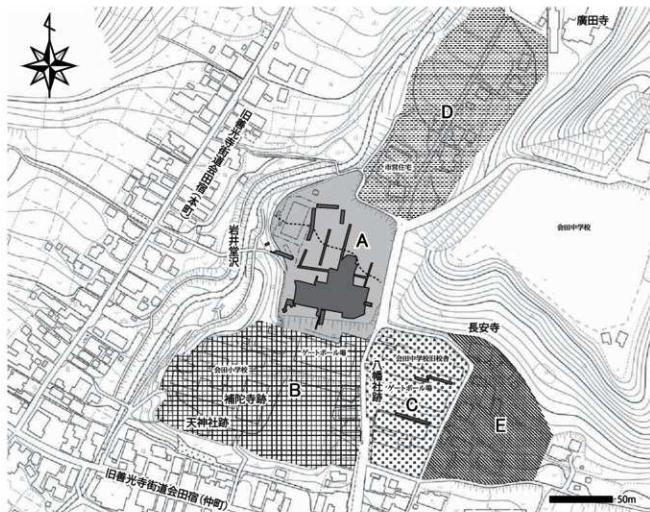
告書は次年度に刊行し、最終年度に第1次調査の成果を含めた総括編を刊行することを目標とした(第1表)。

この計画に基づき、平成22年度は2カ所(2A1・2C1)、平成23年度は1カ所(3A1)の発掘調査を実施した。また、調査成果の公表については、平成22年度に第1次調査概報をまとめ、以後平成23年度に第2次調査報告書、また平成24年度には第3次調査報告書を刊行した。

なお、調査事業の進展に伴い、殿村遺跡と密接な関係を有すると考えられる虚空蔵山城跡についても、発掘調査による確認が必要との判断に達し、平成24年度から3回の実施計画で調査を開始した。

第1表 調査計画

ゾーン	予想される検出遺構等	土地利用状況		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
				2次	3次	4次	5次	6次	7次	8次	
A	中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	空地	市有地	1次調査区周辺							
B	旧補陀寺関連遺構(中・近世) 旧天神社関連遺構(近世) 中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	学校 住宅 CB場	市有地、 一部民有地				校舎 校庭		校舎 校庭		
C	長安寺関連遺構(中・近世) 八幡社関連遺構(近世) 中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	旧校舎 CB場	市有地	旧校舎 周辺	旧校舎 周辺						
D	廣田寺関連遺構 中世造成面 縄紋・古代～中世前半期遺構面	畑地 宅地	民有地 一部市有地					休耕田 荒地			
E	長安寺関連遺構(中・近世) 縄紋・古代～中世遺構面	畑地 宅地	民有地							畑地	
調査報告書刊行				1次 概報	2次 報告	3次 報告	4次 報告	5次 報告	6次 報告	7次 報告	1・8次報告 (総括編)



第2図 ソーニング

第2節 第4次調査の経過

今回報告する第4次調査は、平成24年度国庫補助事業として実施したものである。調査箇所は3カ所(4A1トレンチ・4A2トレンチ・4C1トレンチ)で、平成24年10月1日に着手、同年12月26日に終了した。また、報告書の作成は平成25年度国庫補助事業として行った。

調査から報告書刊行までの一連の事務および作業の経過は以下に示すとおりである。

<平成24年>

- 2月13日 平成24年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出
- 3月26日 第2次発掘調査報告書刊行
- 4月10日 平成24年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知
- 4月14日 平成23年度調査報告会・講演会開催(四賀支所ピナスホール)
- 7月17日 虚空蔵山城跡第2次調査開始
- 9月9日 虚空蔵山城跡現地説明会開催
- 10月1日 殿村遺跡第4次調査開始
- 11月10・11日 平成24年度調査指導委員会開催
- 11月21日 虚空蔵山城跡第2次調査完了
- 12月8日 殿村遺跡現地説明会開催
- 12月26日 殿村遺跡第4次調査完了
殿村遺跡埋蔵文化財発見届および保管証、発掘調査終了報告書提出

<平成25年>

- 3月7日 平成25年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付申請書提出
- 3月16日 平成24年度調査報告会・講演会開催(四賀支所ピナスホール)
- 3月26日 第3次発掘調査報告書刊行
- 5月15日 平成25年度国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知
- 7月16日 虚空蔵山城跡第3次調査開始
- 9月24日 殿村遺跡第5次調査開始
- 10月12日 平成25年度調査報告会・講演会開催(四賀支所ピナスホール)
- 11月16・17日 平成25年度調査指導委員会開催
- 11月21日 虚空蔵山城跡第3次調査完了
虚空蔵山城跡埋蔵文化財発見届および保管証、発掘調査終了報告書提出
- 12月7日 殿村遺跡現地説明会開催
- 12月11日 文化庁近江俊秀調査官視察

<平成26年>

- 1月16日 殿村遺跡第5次調査完了
殿村遺跡埋蔵文化財発見届および保管証、発掘調査終了報告書提出
- 3月16日 殿村遺跡発掘5周年記念シンポジウム開催(あがたの森文化会館)
- 3月25日 第4次発掘調査報告書刊行

第3節 調査体制

<平成24年度>

- 調査団長 吉江 厚（松本市教育長）
調査担当 竹原 学（主査）、宮島義和、伊藤 愛（嘱託）
報告書担当 竹原 学、原田健司（嘱託）
調 査 員 青木教司
発掘協力者 大滝清次、小岩井 洋、塩原正幸、長岩千晴、古屋美江、待井正和、矢満田伸子
整理協力者 荒井留美子、市川二三夫、柏原佳子、竹平悦子、洞沢文江
事 務 局 松本市教育委員会文化財課
伊佐治裕子（課長）、大竹永明（課長補佐・埋蔵文化財担当係長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、柳沢希歩（嘱託）

殿村遺跡調査指導委員会

- 委員長 笹本正治（信州大学副学長）
委 員 小野正敏（大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）
辻 誠一郎（東京大学大学院教授）
中井 均（滋賀県立大学教授）
中澤克昭（長野工業高等専門学校准教授）
水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課文化財係長）
指導・助言 寺内隆夫（長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事）

<平成25年度>

- 調査団長 吉江 厚（松本市教育長）
調査担当 竹原 学（係長）、福澤佳典（主事）、宮島義和、伊藤 愛（嘱託）
報告書担当 竹原 学、宮島義和、原田健司、伊藤 愛（嘱託）
調 査 員 青木教司、市川恵一、河西克造、宮嶋洋一
発掘協力者 大滝清次、清水陽子、茅野信彦、長岩千晴、待井正和、矢満田伸子
整理協力者 荒井留美子、市川二三夫、内田和子、柏原佳子、白鳥文彦、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、洞沢文江、前沢里江、村山牧枝、八坂千佳、安田津由紀
事 務 局 松本市教育委員会文化財課
伊佐治裕子（課長）、直井雅尚（埋蔵文化財担当係長）、櫻井 了（主査）、柳沢希歩（嘱託）

殿村遺跡調査指導委員会

- 委員長 笹本正治（信州大学副学長）
委 員 小野正敏（大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）
辻 誠一郎（東京大学大学院教授）
中井 均（滋賀県立大学教授）
中澤克昭（長野工業高等専門学校准教授）
水澤幸一（新潟県胎内市教育委員会生涯学習課文化財係長）
指導・助言 櫻井秀雄（長野県教育委員会文化財・生涯学習課指導主事）

第Ⅱ章 第4次調査の成果

第1節 調査の目的と方法

調査地の選定とトレンチの配置(第3図) 殿村遺跡調査事業として3回目となる今回の調査は、これまでの調査方針に基づき、①1次調査で検出した平場遺構周辺における盛土層の広がりや外縁部の状況を確認することと、②広大な遺跡内において中世の造成遺構がどこまで広がっているのか確認することを目的とした。そこで今回は、1次調査区東側に南北2.5m・東西6.5mの4A1トレンチを、また北西側の旧会田中学校プール更衣室跡地に南北幅2.9m・東西長19.5mの4A2トレンチを設定し、平場周縁部の構造把握に努めた。また、2次調査の続きとして旧会田中学校校舎周辺における中世遺構の確認を行うため、2C1トレンチの南、現況地形において一段低い面にある南校舎裏庭に南北2m・東西長30.5mの4C1トレンチを設定し調査を行った。

調査手順 4A1・2トレンチの調査は、あらかじめグラウンド造成に伴う盛土(厚さ約1.0～1.2m)を重機で除去し、昭和28年当時の地表面を検出した。ここを調査開始面としてトレンチを設定し、以後人力作業によって層別的な掘り下げを行った。特に複数面の存在する4A1トレンチでは1面～4面まで面的調査を実施した。4C1トレンチは近・現代の盛土層が存在しないため、重機で表土を除去した後、遺物包含層や地山面の検出作業を行った。

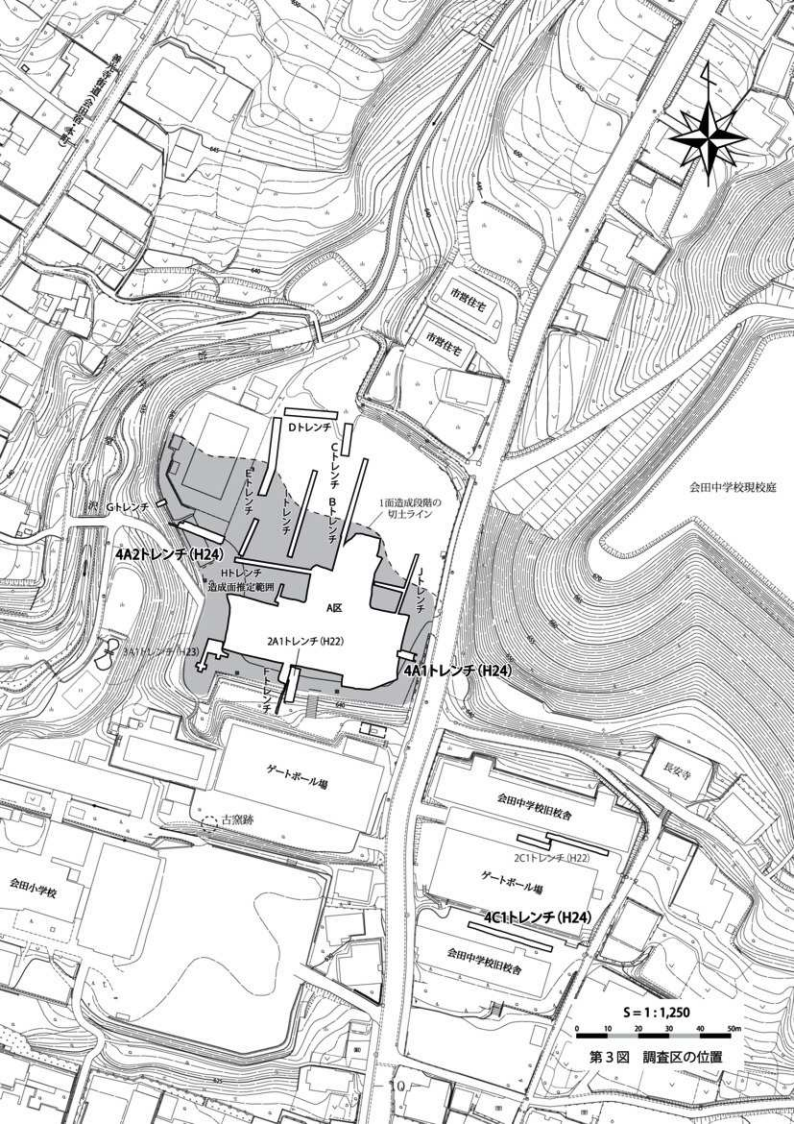
調査面・遺構名・番号管理 今回4A1トレンチでは、1次調査区から連続する1面、2・3面、4面の3面の整地面を確認した。順次層位発掘を行ったが、下層の調査に伴い破壊を余儀なくされる1面～3面までは記録保存調査を実施した。4面は遺構覆土の掘り下げとサブトレンチによる一部断ち割り調査までの実施とした。単一面である4A2トレンチおよび4C1トレンチでは遺構のプランを確認し、時期・性格判定のために一部のものについて覆土の掘り下げ(4A2トレンチ)を行った。

遺構番号はこれまで使用した番号に後続する区切りのいい数(1501～)から開始し、1次調査の方針に従い内容が判明した時点で種別を頭に冠した。石列等特定の遺構も1次調査からの連番とした(石列25)。

記録 遺構測量の基準は1次調査で設定したグリッドを踏襲した。この基準線は、国家座標(世界測地系・第8系)に拠っているが、1次調査との整合を図るため、東北太平洋沖地震の地殻変動以前の観測値を補正せず使用している。

第2表 調査成果一覧

調査期間	平成24年10月1日～12月26日	調査面積	120㎡(4A1:14.1㎡・4A2:47.0㎡・4C1:58.9㎡)
検出遺構		出土遺物	
< 4A1 トレンチ >		縄紋: 土器(深鉢)、石器(石鏃・スクレーパー類・二次加工ある剥片・微細刺離ある剥片・剥片) 奈良・平安: 土師器(杯・甕) 黑色土器(杯or椀) 須恵器(杯・蓋・壺類・甕類) 石器(つき白) 中世: 土師質土器(皿・内耳鍋) 陶器(程鉢・三足盤) 石器(硯、砥石) 木製品(馬形木製品・斎串状木製品・短冊状板・部材・端材・不明品) 自然遺物(巻貝)	
1面以降	土坑2、溝状遺構1(近代か)		
1面	ビット1、溝状遺構1、柱痕2、石列1、土塁(中世)		
2・3面	ビット1、溝状遺構1(中世)		
4面	石積遺構1(中世)		
< 4A2 トレンチ >			
縄紋	土坑1		
中世	ビット9、土坑2		
近世以降	土坑1、溝状遺構3、不明遺構3		
< 4C1 トレンチ >			
奈良・平安	ビット3、土坑1		



会田中学校現校庭

4A2トレンチ (H24)

Hトレンチ
造成面指定範囲

2A1トレンチ (H22)

4A1トレンチ (H24)

ゲートボール場

古窯跡

会田小学校

会田中学校旧校舎

ゲートボール場

4C1トレンチ (H24)

会田中学校旧校舎

長安寺

S=1:1,250



第3図 調査区の位置



第4図 Aゾーン調査区全体図（5～3面）

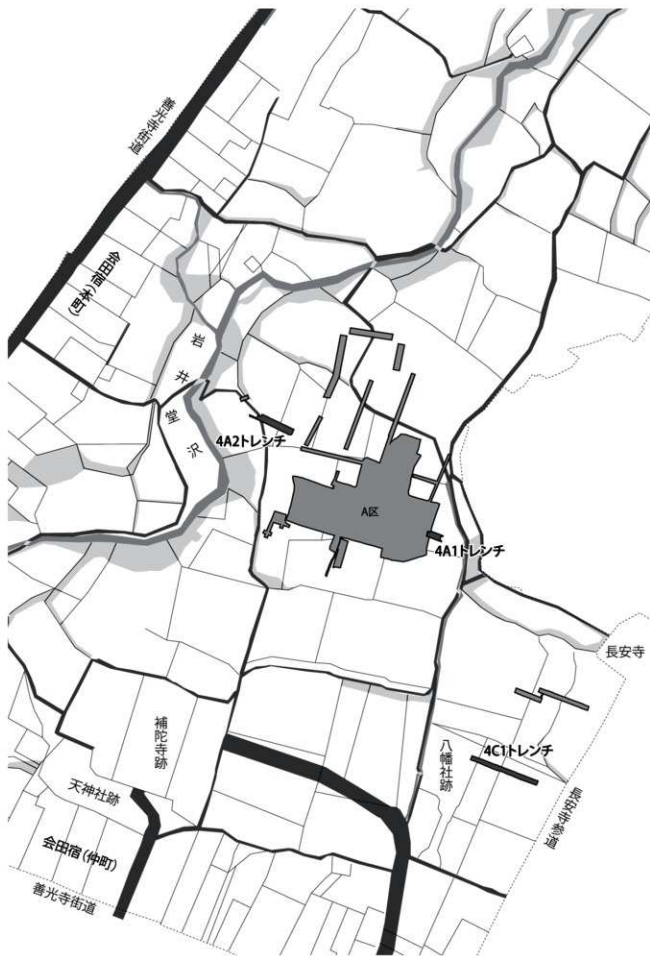
- 石積前空間・土中層の検出遺構
- 5面（旧地表・地山面）検出遺構



第5図 Aゾーン調査区全体図（2面）



第6図 Aゾーン調査区全体図(1面)



第7図 調査区と周辺の地割（明治24年）

第2節 遺構

1 4A1トレンチ (第3表、第3～6・8～11図)

(1) トレンチの概要と土層構成、遺構の概要

トレンチの概要 本調査トレンチは1次調査A区の東に接し、標高641m地点に南北2.5m・東西6.5m(いずれもグラウンド盛土を除いた旧地表面での規模)に設定したものである。トレンチの西部は、1次調査K-0トレンチ東部の北に、約10cmの間隔を置いて平行に位置する。調査地は昭和28年に造成されたグラウンド盛土によって平坦面となり、現況からは旧地形を推察することはできない。このグラウンド盛土を重機で掘り下げたところ、約1.2m前後の深さで昭和28年以前の旧地表面に到達した。この旧表土は15～20cmの厚さで確認できたが、激しい攪乱によって荒れていた。これは、戦前この場所に療養所が建てられていた経緯によるものである。旧表土を剥がすと中世の整地土層の第1面が現れ、この段階の溝状遺構や上層から掘り込まれた近代の遺構が検出された。そこから本トレンチにおける最古段階の4面に至るまで、4段階にわたって造成された整地土が2m近くの厚さで確認できる。4面は石積遺構1528が機能していた段階と埋没した段階の2時期に区分できるが、後者の段階の層位上面を広義の4面とした。地山の状況から、旧地形は緩やかな傾斜面が北東から南西に向かって続いていたことが窺える。

土層構成 1面整地土は地山土由来の風化泥岩屑や砂岩屑が多量に混ざり、ブロックの粒度が大きく粗い土である。1層ごとがある程度の厚みを持っているため、一度に大量の土を投じて整地したものと推察できる。今回の調査で検出された1面整地土は、そのほとんどが土塁の盛土と考えられる。1面の最下層には青灰色で炭塊を多量に含む粘土層(17層)があるが、これは土塁を構築する際にその基盤として貼ったものか、あるいは土塁以前の構築物に伴うものであろう。2・3面整地土は岩屑が混ざるものの、ブロックが1面整地土に比べて小さく土質もやや精良である。1面の土塁の構築時に削平されたため、本来の高さを失っている。4面は灰黄褐色を基調色とした整地土で、砂岩や泥岩の岩屑は少ない土である。地下水の影響を受けて酸化し橙色に変色した土も見られ、粘土質の層が多い。

遺構の概要 平面的に確認できた1面の遺構は溝1505とP1507である。土1506と溝1508、南壁面で確認された土1527はいずれも1面以後のもので、近代の遺構であると考えられる。1面整地土の最下層からは、石列25が検出されている。2・3面で検出した遺構は溝1509とP1526の2基であった。4面では、隅丸長方形の竪穴状を呈する石積遺構1528が見つかった。また、トレンチ東部では地山を削り込んだ切岸もあり、当時の土地改変の様子を窺い知ることができる。

(2) 4面の遺構

切岸 トレンチ東部で検出された平場東縁の区画に関わる遺構で、地山を直接掘り込むことによって構築されている。残存部を見ると、トレンチ北東から2・3面のレベルで地山が平坦に続いた後、南西に向かって急激に傾斜して落ち込んでいる。これは4面段階では東の尾根から続く斜面が切岸まで至っていたものが、2面の段階に平場の拡張に伴って削平されて現況のような平坦面になったものと思われる。傾斜角は32°、現況の天端から法尻(石積遺構1528の天端)までの比高は75cmである。4面整地土はこの切岸を埋めるように東から西にかけて徐々に盛土を厚くすることで平坦面を造りだしている。

石積遺構1528 隅丸長方形を呈する石積遺構で、トレンチ西部で検出された。検出当初は調査区の南へ続いていく平場東縁の堀かと思われたが、南壁の崩落により南東隅がわずかに露出したことで石積が一周する竪穴状の遺構であると判明した。石積は一旦地山を掘削状に掘り込んでから底面直上に積まれている。内部空間の規模は長軸2.7m・短軸1.5m、石積の高さは80cm、長軸はN-11°-Wにとる。積石は4～

5段に垂直に積まれているが、大きさや形は統一されていない。ほとんどが自然石を未加工のまま利用したものであり、東面で一部表面を削った可能性のあるものがわずかに見られるのみである。裏込栗石はなく、整地土によって積石を支えている。天端石は粘質土（70～73層）が被覆しているため控えの長さは正確にはわからないが、奥行きに対して幅を大きく取る傾向がある。北西隅や北東隅における基底部の積み方は方形を意識して角度がつけられ、特に北東隅で顕著である。しかし上段の積石では明確に角を作らず、下段の角を隠すように斜めに置かれている。北西隅では特にその傾向が強く、ほぼ隅丸状になっている。これは石積の隅部に角を持たせる技術が未確立であったことに起因するのではないと思われる。石積遺構内の覆土は自然堆積によるもので、厚さ60cmの水性堆積土の最下層はヘドロ状の粘土となっている（122層）。この堆積土の土壌分析を辻誠一郎氏に依頼した結果、鞭虫・回虫等の寄生虫の卵が大量に含まれていることがわかった。検出当初よりこの遺構の性格については明確な結論は出せず水溜施設の一つと見ていたが、この分析結果によって便所遺構である可能性が高まった。また、ペニバナの花粉も多量に検出された。遺構は徐々に埋没していき、4面の最終段階には廃絶に至ったようである。

遺物は遺構内から硯や斎申状木製品、古瀬戸の三足盤が出土している。硯は石積中段の築石に貼りつくように出土し、三足盤は底面直上で見つかった。これらの出土遺物の年代から、遺構の時期は15世紀中葉～後葉であると考えられる。その他に自然遺物として覆土中から枝等の自然木が多く出土したほか、巻貝の螺旋の軸部の破片が出土した(写真図版11)。残存長は6.3cmで、アカニシ貝等の海産貝類の一種と考えられる。

(3) 2・3面の遺構

P1526 トレンチ中央部の北壁寄りで検出した。直径23cm・深さ8cmの円形のビットである。遺物の出土はない。

溝 1509 トレンチ東部に位置する。1面最下層である17層の直下(27層)で検出された。長さは2.3mで南東部は地山に沿って調査区外に延び、北西部は北壁から50cmの地点で完結している。最大幅45cm・深さ8cmで、軸はN-27°-Wにとる。遺物の出土はない。覆土に1面最下層の粘土が混ざっており、土塁構築の段階に埋められたものと考えられる。断面は浅い皿状を呈している。

(4) 1面の遺構

土塁 整地土と土質が近似しているため平面で判別することは困難だが、後述する溝1505が土塁の落ち込みに相当することが南北壁面でわかり、また1次調査で確認した1面のレベルとも大きく違っていたため、土塁と判断するに至った。土塁上部は後世の土地利用で削平され、構築当初の高さを失っている。残存部分の規模は基底幅5.7m・高さ70cm。東裾は36°の角度で法面を形成する。1次調査の際に調査区の東端で本土塁の裾と思われる盛土が検出され、土塁状の造成土として報告したが、これが今回の調査で見つかった土塁の西裾となる。盛土の最下層は前述した石列25とそれを伴う粘土の層(17層)である。狭い範囲での検出であったため主軸は判定し難いが、おおよそ溝1505の軸方位と同じであろう。

P1507 トレンチ南部で検出した。サブトレンチで切られているため全形は定かではないが、円形を呈すると予想される。直径は24cm・深さ11cmを測る。底面は2段底をなしており、1段深い部分は柱痕の可能性ある。遺物の出土はない。

溝 1505 トレンチ東部で検出。土塁東裾の区画溝と思われ、溝と判断してよいものか迷ったが、検出当初の所見に倣って溝状遺構とした。1面上面すなわち土塁盛土である7層から掘り込まれる。東の立ち上がりは調査区外のため確認できないが、検出幅は75cmで、実際はそれ以上の規模になる。深さは65cm、断面は確認できる範囲では舟底状に掘り込まれている。長軸はN-3°-Eで土塁に沿って走り、南北ともに

調査区外に延びる。遺物は出土していないが、溝の内部で柱痕が2本検出された。

柱痕 溝1505内から2本出土した。南部から出土した柱痕1は残りが良好で、直径は残存値で11.5cm以上・長さ21.7cm。柱痕2は1よりもやや残りが悪いものの、残存径8.5cm以上、残存長24.5cmを測る。両者とも下面は鋸で切断されており、いずれも樹種は針葉樹であると考えられる。両柱の間隔は約1.8mで、丁度1間分の寸法に相当する。軸は溝1505と同じN-3°-Eをとる。土塁の東裾にあった柵等の施設であった可能性が高いが、明確な掘り方は確認できなかった。

石列25 トレンチ西西部の1面最下層(17層)上面で検出。炭塊を多量に含む粘土を伴い、トレンチを南北に貫いて調査区外に伸びる。粘土の範囲は幅1.4m・厚さ12cm、石材はこの粘土に貼りつくように十数個が配置されていたが、規則性はあまりみられない。石の大きさも大小様々であり、いずれも自然石で形は統一されていない。1面の最古段階の構築物と考えられる。長軸はN-24°-Eで、上記の土塁の軸とはややずれている。

(5) 1面以降の遺構

土1506 トレンチ北東部で検出した。直径67cm・深さ13cmで不整形を呈する。埋土は旧表土によく似た新しい土であるため、1面以降の近代に掘削された土坑と考えられる。1面の遺構である溝1505の西辺を僅かに切る。残存する西部の掘り込みの形状から、断面は逆台形を呈する。遺物の出土はない。

土1527 南壁でのみ確認。調査区外に続くうえにサブトレンチで掘り抜いてしまったため、平面で確認することはできない。土1506と溝1508の中間に位置し、両遺構と同様に旧表土直下(3層上面)から掘り込まれている。壁面で確認できる限りでは、径60cm・深さ37cmでU字状断面を呈する。

溝1508 トレンチ中央部で検出した。旧表土直下から掘り込まれており、幅37cm・深さ10cm、断面は浅い皿状である。軸はN-5°-Eにとり、南北ともに調査区外に延びる。溝1505と平行に走るため一見中世の遺構に見えるが、掘り込み層位が異なり近代の瓦が出土していることから、土1506と同じく1面以降、近代に掘削されたものと考えられる。

2 4A2トレンチ(第3表、第3・12図)

(1) トレンチの概要と土層構成、遺構の概要

トレンチの概要 本調査区は、1次調査A区北西のグラウンド西縁、標高640～641m地点に設けた南北2.9m×東西19.5mのトレンチである。調査地点には元々旧田中学校プールの更衣室やシャワーがあり、調査開始前に解体・撤去した。この一帯も昭和28年のグラウンド造成により1～1.5mに達する厚い盛土が覆い、現況からは旧地形を判断することができない。調査開始に際しグラウンド盛土を重機で除去したところ、グラウンド造成以前の地形は東から西に徐々に下降する傾斜面をなし、トレンチ末端で岩井堂沢に臨む段丘崖となっていることがわかった。切岸状を呈する段丘崖には石積等の施設が存在することも想定したが、調査の結果、近世以降の畑に伴う雑な石積が検出されたものの、中世以前の造作は確認されなかった。

土層構成 本トレンチにおける土層構成は、基本的には近世から現代の耕作土である旧表土が10～20cmの厚さで全体を覆うが、それ以下は東部～中部と西部で状況が異なっている。まずトレンチ東部～中部は旧表土直下に岩井堂沢の堆積物である黄褐色シルトの地山面が広がり、縄紋時代以降のすべての遺構はそこで検出した。対してトレンチ西部、溝1520から西側では近世以降と思われる攪乱がトレンチ全体に深く刻まれ、本来の地山面は失われてしまっている。

遺構の概要 遺構は攪乱の影響を受けないトレンチ東部～中部で検出された。大きくは、縄紋時代の土坑(土1524)、中世のピット・土坑群(P1510～1514・1516～1518・1525、土1515・1519)、時期

不明（おそらく近世以降）の土坑（土 1529）、溝状遺構（溝 1520・1521・1522）、性格不明の遺構（不明遺構 1530～1532）に分けられる。このうち縄紋時代の遺構はこれまでの調査で初めて捉えられたもので、時期の判明する遺物も伴っている。中世のピット群は1次調査A区やHトレンチで多出した平場状の遺構の続きと考えられ、その縁辺部にあたるかと推察される。溝状遺構は3本とも南北方向に平行に配列し、うち溝 1522 が礫を伴う暗渠であるほかは性格がよくわからない。

(2) 縄紋時代の遺構

土 1524 唯一の縄紋時代の遺構である。溝 1522 に東部を切られ、さらに調査区南壁下のサブトレンチ掘削により南部を失うため全形は不明であるが、隅丸方形ないしはやや角張った楕円形の土坑とみられる。残存部分での大きさは南北 88cm・東西 1m、検出面からすり鉢状の掘り込み底面までの深さは 34cm を測る。覆土は暗褐色を呈して炭化物を含み、底面上には被熱した 40cm×16cm の長方形角礫が残される。遺物は覆土中より縄紋土器片、石器（削器）が出土した。土器の帰属時期から前期初頭の遺構と考えられる。

(3) 中世の遺構

ピット群（P1510～1514・1516～1518・1525）9基が検出された。P1514を除き円形を呈し、直径 22～40cm、いずれも地山面上からの深さは浅く 10～15cm、U字状の単純な掘り込みである。P1514は不整形だが、大きさと覆土等の特徴が他と共通するため便宜上ピットに含めた。覆土は暗色を呈することから他時期の遺構や攪乱とは明瞭に区別された。おそらく柱穴と推察されるが、柱痕が明確に捉えられるものではなく、またピットの配列にも特に規則性は見られない。これらからの遺物の出土はない。

土 1515 トレンチ東端部付近で検出された不整形楕円形の土坑である。南北 1m・東西 70cm、浅い皿状の掘り込みは深さ 5～10cm を測る。長軸方位は N-31°-E で、覆土は焼土粒をわずかに含む褐色シルトである。遺物は平安時代の黒色土器片が 1点得られた。

土 1519 トレンチ東部、溝 1522 に西接する方形土坑である。南北 80cm・東西 66cm、やはり皿状の浅い掘り込みを有し、深さ 13cm を測る。覆土は小礫を含む黒褐色土で、遺物は出土していない。

(4) 時期不明の遺構

土 1529 トレンチ南壁面で確認されたが、調査区外に広がることとサブトレンチで破壊したため、平面形はまったくわからない。位置的に土 1524 の末端部の可能性も考えたが、覆土が異なるため別遺構と判断した。すり鉢状の掘り込みを有する遺構のようである。

溝 1520～1522 これらの遺構はトレンチ中部において、南北方向に川字状に並行して並んでいる。西側の溝 1520 は長軸方位 N-20°-E、やや幅が一定せず 50cm～1m、深さ 27cm、逆台形に掘り込まれる。覆土は黄褐色のブロックを多く含む褐色シルトで、人為的な埋土とみられる。遺物は出土していない。溝 1521 は中間にあり、長軸方位は N-21°-E、幅は 2.5～3.5m と広く、深さ 19～25cm の底面は凹凸がある。覆土は褐色シルトで黄褐色ブロックを多含し、人為的に埋められたと推定される。溝 1522 は最も整った形をなし、幅 54～68cm、長軸方位 N-16°-E、深さ 20cm 以上の明瞭な逆台形の掘り込みを有する。内部は十分な調査を実施していないが、溝内には中央に大きい平石を蓋のように、壁沿との空隙には小礫を充填しており、その構造から暗渠であることがわかる。これらの溝状遺構はいずれも出土遺物がなく、時期の判定ができない。おそらく近世以後の所産ではないかと考えられる。

不明遺構 1530～1532 トレンチ西部に所在し、土 1529 と同様トレンチ南壁面に存在を確認した遺構である。上部を攪乱で失い、またサブトレンチの影響もあるため、遺構の形態はまったくわからない。出

土遺物もなく帰属時期は不明である。

3 4C1トレンチ（第3表、第3・13図）

(1) トレンチの概要

2次調査に続き、Cゾーンでの2回目の発掘調査となった。今回の調査区は2C1トレンチの南約31mの地点で旧会田中学校南校舎のある平坦面上であり、校舎とゲートボール場の間に南北2m・東西30.5mのトレンチを設定した。表土である腐植土層を重機で掘り下げたところ、現地表面からわずか10cmほどの深さで不整合面となり地山が露出した。これは調査地周辺が元々西から東に向かって緩やかに下降する地形で、西側が校地造成による削平を受けたことが原因と考えられる。この地山層はトレンチ西部から中央部にかけての広範囲に亘って検出された。2C1トレンチでは全域で中世の造成土が検出されたが、本調査区では中世の整地土はまったく見られず、奈良・平安時代の遺物を含む土層（以下、遺物包含層）が東端部のわずかな範囲で検出されたのみであった。この遺物包含層は断面で見ると北壁下では東壁から4.7m、南壁下では7mの地点まで広がっていることが確認できる。包含層からは、多量の須恵器と中世の遺物が3点出土した。須恵器の帰属時期は、その特徴から8世紀末～9世紀初頭と推定される。中世の遺物は包含層の上面から出土した土師質土器皿2点と無釉陶器の捏鉢である。土師質土器皿は13世紀代の特徴を有しており、Aゾーン（1次調査区）の平場造成開始期（4面段階）や2A1トレンチの平場造成土以前に遡る古いものである。

(2) 土層構成

上述のように、表土を取り除くとトレンチ西部ではすぐに地山に到達するが、東部では遺物包含層が現れる。黒褐色を呈するこの土層は2a～2c層の3層からなり、わずかではあるが炭化物が混ざる。最上面である2a層の上面には須恵器片が散乱し、2b・2c層からも須恵器片が出土している。いずれの層も風化岩屑が少量混ざるものの、シルト質でやや精良な土である。地山は岩井登沢に由来する2次堆積層で、2層構造になっている。上層はシルト質で輝石安山岩が混じる遺物包含層形成以前の旧地表土、下層は黄褐色の粘土層である。

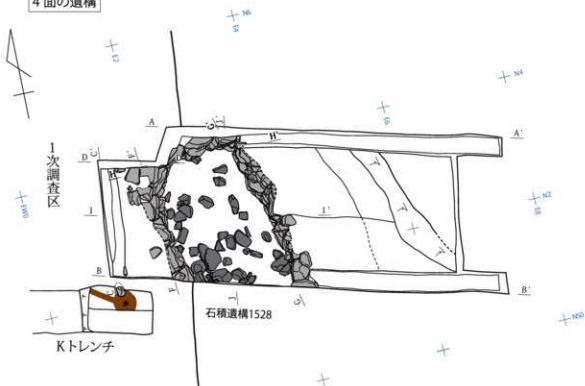
(3) 遺構

トレンチ東部の遺物包含層から、ビット3基と土坑1基を検出した。いずれの遺構も掘り下げは行っていないため、断面や土層・遺物の有無等は確認できなかった。

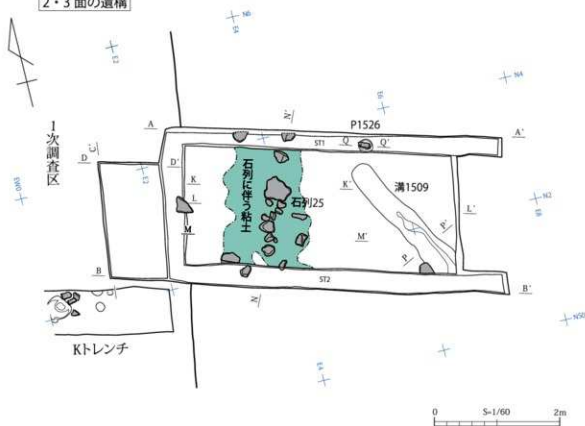
P1501～1503 トレンチ東部の南壁寄りで見つかった。P1501はトレンチ南東隅で検出された、長径35cm・短径27cmの不整楕円形ビットである。平面では暗褐色の覆土が確認できる。P1502は直径20cmの小型のビットで、ほぼ正円形である。遺物包含層の中央部南壁寄りで見つかった。P1503は遺物包含層のやや西側で、前述した2基と同様南壁寄りで検出された。長径43cm・短径32cmの不整楕円形ビットである。

土1504 遺物包含層の西端に位置し、長径1.5m・短径28cmの不整形をなす。この土坑の検出面上には須恵器片が散乱していた。

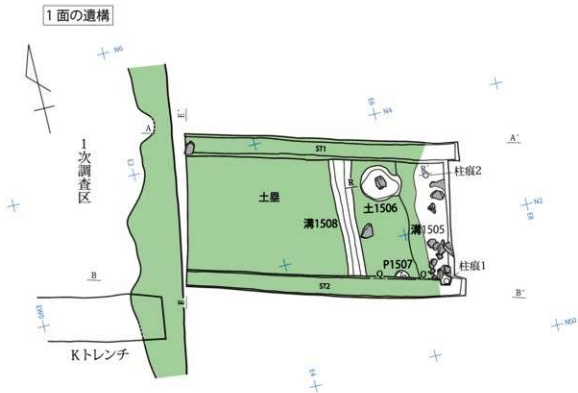
4面の遺構



2・3面の遺構

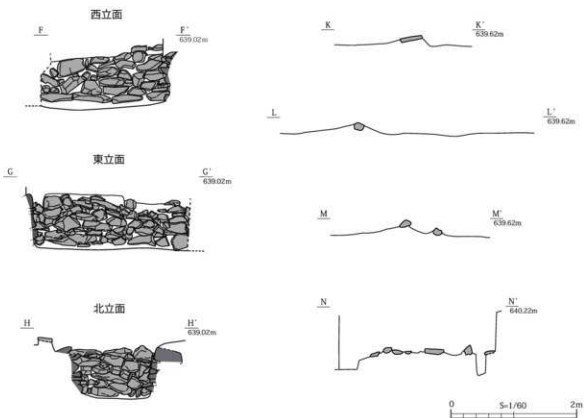


第8図 4A1トレンチ(1)

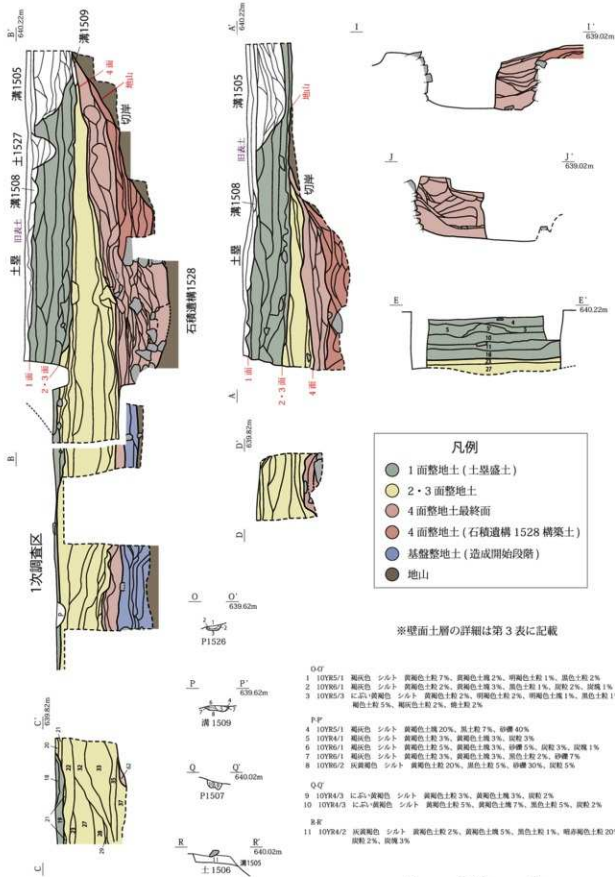


石積遺構 1528

石列 25 エレベーション

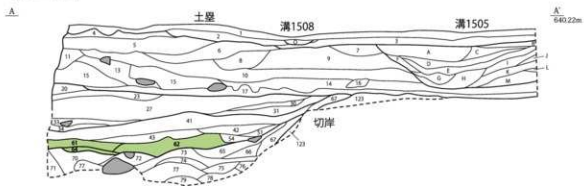


第9図 4A1トレンチ (2)

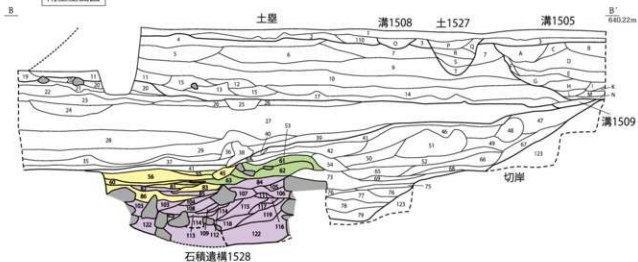


第10図 4A1 トレンチ (3)

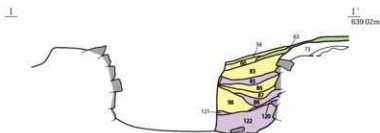
北壁壁面図



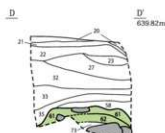
南壁壁面図



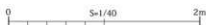
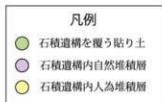
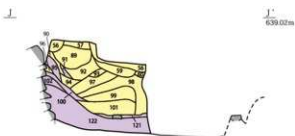
石積遺構 東西セクション



北壁西部セクション



石積遺構 南北セクション



第11図 4A1 トレンチ (4)

4C1 トレンチ



※壁面土層の詳細は第3表に記載

第13図 4C1 トレンチ

第3表 土層観察表

土層 No	土色	色	土質	しまり	含有物	分類・備考
4A1 トレンチ						
壁面土層						
1	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子7%・黄褐色土塊7%・暗赤色土粒子10%・黒色土粒子3%・明褐色土塊2%・炭塊5%・炭粒子5%・焼土塊2%	昭和28年耕作土
2	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子2%・黄褐色土塊2%・炭粒子1%・炭塊1%	旧表土(近代面)
3	10YR 6/3	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子15%・明褐色土粒子7%・黒色土粒子5%・砂礫15%・炭粒子2%・炭塊3%	〃
4	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子15%・黄褐色土塊10%・黒色土粒子3%・砂礫5%・炭塊2%・焼土塊1%	1面整地土(土壌盛土上層)
5	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土塊20%・黒色土粒子7%・灰白色土塊2%・炭粒子1%・炭塊1%	〃
5	10YR 6/1	褐色	シルト	あり	黄褐色土塊30%・黒色土粒子7%・砂礫7%・炭粒子3%・炭塊7%・炭土粒子1%	〃
6	10YR 5/6	黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子20%・黄褐色土塊20%・黒色土粒子10%・砂礫25%・φ10~15mm 大の礫極少量・炭粒子2%・炭塊3%・焼土粒子1%	〃
7	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子7%・黄褐色土塊10%・黒色土粒子2%・砂礫15%・炭粒子1%	〃
8	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊15%・黒色土粒子10%・砂礫7%・炭粒子3%・焼土粒子1%	〃
9	10YR 6/6	明黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊15%・黒色土粒子5%・砂礫7%・炭粒子2%	〃
10	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子30%・黄褐色土塊10%・黒色土粒子5%・砂礫25%・炭粒子2%	1面整地土(土壌盛土下層)
11	10YR 5/1	褐色	シルト	あり	黄褐色土塊30%・黒色土粒子7%・砂礫7%・炭粒子3%・炭塊7%・炭土粒子1%	〃
12	10YR 6/4	にぶい黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子15%・黄褐色土塊20%・黒色土粒子7%・砂礫15%・φ20~30mm 大の礫1%	〃
13	10YR 4/1	灰黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子7%・黄褐色土塊10%・黒色土粒子10%・砂礫10%・φ10~15mm 大の礫2%・φ25~30mm 大の礫1%	〃
14	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊20%・黒色土粒子2%・φ50~60mm 大の砂礫30%・焼土塊1%	〃
15	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子15%・黄褐色土塊20%・黒色土粒子2%・砂礫40%・炭粒子1%	〃
16	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊1%・砂礫1%・焼土粒子主に	〃
17	10YR 5/1	褐色	粘土	やや弱め	黄褐色土粒子5%・黒色土粒子7%・砂礫3%・炭粒子15%・炭塊(小)15%・炭塊(大)1%・焼土塊1%	1面土基礎下層の粘土
18	10YR 4/1	褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子3%・黄褐色土塊1%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊5%・灰白色土粒子7%・炭粒子25%・炭塊15%	1面整地土(土壌盛土下層)
19	10YR 5/1	褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子3%・黄褐色土塊2%・明褐色土粒子15%・明褐色土塊7%・黒色土粒子5%・灰白色土粒子10%・にぶい黄褐色土塊10%・φ40~50mm 大の礫極少量・焼土粒子1%	〃
20	10YR 5/1	褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊40%・黒色土粒子3%・砂礫20%・φ8~10mm 大の礫2%・炭粒子2%・炭塊5%	2・3面整地土(上層)
21	10YR 6/1	褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子3%・明褐色土粒子15%・明褐色土塊2%・黒色土粒子7%・炭塊5%・炭土粒子1%	〃
22	2.5YR 6/2	灰黄色	シルト	非常に強い	黄褐色土塊15%・明褐色土粒子25%・明褐色土塊20%・黒色土粒子20%・明褐色土塊7%・暗赤色土粒子7%・炭塊7%・砂礫5%	〃
23	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子7%・黄褐色土塊10%・黒色土粒子3%・砂礫20%・炭粒子2%・焼土塊3%	〃
24	調査のため不明	—	—	—	—	〃
25	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	やや弱め	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊5%・黒色土粒子2%・砂礫7%	〃
26	10YR 6/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子20%・黒色土粒子7%・砂礫30%・炭粒子5%	〃
27	10YR 5/6	黄褐色	シルト	非常に強い	黄褐色土粒子20%・黄褐色土塊15%・明褐色土粒子15%・明褐色土塊10%・黒色土粒子10%・灰黄褐色土塊2%・砂礫7%・炭塊3%・焼土粒子1%	〃
28	10YR 6/6	明黄褐色	シルト	あり	黄褐色土塊2%・明褐色土粒子15%・明褐色土塊10%・黒色土粒子5%・灰白色土塊7%・褐色土塊2%・砂礫2%・焼土粒子1%	〃
29	10YR 5/6	黄褐色	シルト	あり	黄褐色土塊5%・明褐色土塊2%・黒色土粒子2%・灰白色土塊1%・炭塊1%	〃
30	10YR 4/6	褐色	シルト	非常に強い	黄褐色土塊5%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊10%・黒色土粒子7%・砂礫3%	2・3面整地土(下層)
31	10YR 4/1	褐色	シルト	強い	黄褐色土塊3%・明褐色土塊7%・黒色土粒子5%・砂礫2%	〃
32	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊5%・明褐色土粒子20%・明褐色土塊7%・黒色土粒子25%・灰白色土粒子5%・灰白色土塊5%・褐色土塊5%・砂礫2%・焼土粒子2%	〃
33	10YR 6/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊40%・明褐色土粒子3%・明褐色土塊20%・黒色土粒子10%・炭粒子1%	〃
34	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊10%・明褐色土粒子3%・明褐色土塊3%・黒色土粒子2%・炭粒子1%	〃
35	10YR 5/6	黄褐色	シルト	強い	黄褐色土塊7%・明褐色土粒子25%・明褐色土塊5%・黒色土粒子7%・灰白色土塊3%・褐色土塊5%・砂礫3%	〃
36	10YR 6/8	明黄褐色	シルト	強い	明褐色土粒子5%・明褐色土塊5%・黒色土粒子2%・灰白色土塊3%・褐色土塊1%	〃
37	10YR 6/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊5%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊3%・黒色土粒子3%・灰白色土塊5%・褐色土塊2%・赤褐色土塊3%・炭粒子1%	〃
38	10YR 7/1	灰白色	粘土	非常に強い	明褐色土粒子7%・明褐色土塊5%・黒色土粒子5%	〃
39	10YR 6/6	明黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊15%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊3%・黒色土粒子7%・灰白色土塊3%・褐色土塊3%	〃
40	10YR 5/8	黄褐色	シルト	非常に強い	黄褐色土塊15%・明褐色土粒子3%・黒色土粒子3%・砂礫2%	〃
41	10YR 4/3	にぶい黄褐色	シルト	非常に強い	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊15%・明褐色土粒子5%・明褐色土塊15%・黒色土粒子10%・砂礫5%・炭粒子3%	4面整地土最終段階

土種 №	土色	色	土質	しまり	含有物	分類・備考
42	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子2%・黄褐色土塊2%・明褐色土粒子2%・明褐色土塊3%・黒色土粒子3%・明褐色土塊7%・炭粒子1%	4面整地土
43	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土塊30%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊15%・黒色土粒子2%・灰白色土塊10%・褐色土塊3%・炭粒子7%	〃
44	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	明褐色土粒子5%・明褐色土塊2%・黒色土粒子2%・灰白色土粒子5%・灰白色土塊10%	〃
45	10YR 4/3	にぶい黄褐色	粘土	あり	黄褐色土塊3%・明褐色土粒子2%・明褐色土塊5%・黒色土粒子3%	〃
46	10YR 5/4	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子2%・明褐色土粒子10%・明褐色土塊7%・黒色土粒子7%・灰黄褐色土塊15%・炭粒子3%	〃
47	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子10%・黄褐色土塊5%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊5%・黒色土粒子10%・明黄褐色土塊2%・炭粒子3%・炭土粒子1%	〃
48	10YR 6/6	明黄褐色	シルト	かなり強い	明褐色土粒子10%・明褐色土塊15%・黒色土粒子3%・灰白色土塊7%・灰黄褐色土塊2%・炭粒子2%	〃
49	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土塊5%・明褐色土粒子10%・明褐色土塊20%・黒色土粒子7%・炭粒子5%	〃
50	10YR 5/1	褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊25%・明褐色土粒子5%・黒色土粒子3%	〃
51	10YR 6/4	にぶい黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子3%・黄褐色土塊1%・明褐色土粒子30%・明褐色土塊5%・黒色土粒子7%・炭粒子2%・炭土粒子1%	〃
52	10YR 6/3	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子3%・黄褐色土塊1%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊3%・黒色土粒子3%・褐色土塊7%	〃
53	10YR 4/3	にぶい黄褐色	シルト	あり	黄褐色土塊7%・明褐色土粒子3%・明褐色土塊7%・黒色土粒子2%・灰白色土粒子7%・灰白色土塊3%・炭粒子1%・炭塊1%	〃
54	10YR 6/6	明黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子3%・明褐色土粒子10%・褐色土塊7%	〃
55	2.5Y 4/2	暗灰黄色	シルト	あり	黄褐色土塊2%・明褐色土粒子3%・明褐色土塊15%・黒色土粒子3%・灰白色土粒子7%	〃
56	10YR 5/1	褐色	粘土	あり	黄褐色土塊3%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊10%・黒色土粒子5%・灰白色土塊7%・緑灰色土粒子3%・砂礫10%・炭粒子2%・炭土粒子1%・木質片少量	〃
57	10YR 7/1	灰白色	シルト	非常に強い	明褐色土塊7%・黒色土粒子7%・暗褐色土粒子10%	〃
58	10YR 5/2	灰黄褐色	粘土	あり	黄褐色土塊2%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊5%・黒色土粒子3%・灰白色土粒子5%	〃
59	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子5%・黄褐色土塊1%・灰白色土粒子5%・灰白色土塊7%・炭化木質片30%	〃
60	5G 5/1	緑灰色	シルト	やや弱め	黄褐色土粒子3%・明褐色土粒子2%・黒色土粒子2%・炭塊5%・下部に青色化した木質3%	〃
61	10YR 4/2	灰黄褐色	粘土	かなり強い	黄褐色土粒子2%・明褐色土粒子5%・明褐色土塊7%・黒色土粒子3%・灰白色土粒子7%	石積遺構1528を覆う粘土
62	10YR 5/1	褐色	粘土	強い	黄褐色土粒子2%・黄褐色土塊5%・黒色土粒子7%・暗赤褐色土粒子15%・暗赤褐色土塊5%	〃
63	10YR 4/1	褐色	粘土	あり	黄褐色土塊2%・明褐色土粒子3%・黒色土粒子2%・褐色土塊1%・木片7%	〃
64	10YR 6/1	褐色	粘土	あり	黄褐色土粒子15%・明褐色土粒子30%・明褐色土塊10%・黒色土粒子2%・暗赤褐色土粒子7%	石積遺構施設段階の盛土(4面初階の階)
65	10YR 3/1	黒褐色	粘土	あり	黄褐色土粒子2%・明褐色土塊3%・黒色土粒子10%・にぶい黄褐色土粒子15%	〃
66	10YR 4/1	褐色	粘土	強い	黄褐色土粒子3%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊10%・黒色土粒子3%・にぶい黄褐色土粒子1%	〃
67	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子15%・明褐色土粒子15%・黒色土粒子7%・灰黄褐色土塊5%・炭土粒子1%	〃
68	10YR 4/1	褐色	粘土	やや弱め	黄褐色土粒子2%・明褐色土粒子2%・明黄褐色土塊5%・黒色土粒子5%・灰白色土塊2%・炭粒子7%・炭塊15%	〃
69	7.5YR 4/6	褐色	シルト	強い	明褐色土粒子15%・黒色土粒子1%・にぶい黄褐色土粒子2%	〃
70	10YR 6/1	褐色	粘土	あり	黄褐色土塊1%・明褐色土粒子10%・明褐色土塊3%・黒色土粒子5%・暗赤褐色土粒子2%・炭粒子1%・炭塊2%・炭化木片少量	〃
71	10YR 5/3	にぶい黄褐色	粘土	強い	黄褐色土粒子3%・黄褐色土塊2%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊5%・黒色土粒子3%・炭粒子3%・炭塊1%	〃
72	10YR 4/2	灰黄褐色	粘土	強い	黄褐色土粒子1%・黄褐色土塊2%・明褐色土粒子10%・明褐色土塊2%・黒色土粒子5%・暗赤褐色土粒子2%・炭土粒子1%	〃
73	10YR 4/2	灰黄褐色	粘土	強い	黄褐色土粒子15%・黄褐色土塊5%・明褐色土粒子10%・明褐色土塊5%・黒色土粒子5%・灰白色土粒子3%・炭粒子1%	〃
74	10G 5/1	緑灰色	粘土	非常に強い	黄褐色土塊2%・明褐色土粒子10%・明褐色土塊5%・黒色土粒子2%	〃
75	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	かなり強い	明褐色土粒子50%以上・黒色土粒子2%・炭塊1%・木質1%	〃
76	10YR 5/3	にぶい黄褐色	粘土	強い	黄褐色土粒子3%・黄褐色土塊2%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊5%・黒色土粒子3%・炭粒子3%・炭塊1%	〃
77	10Y 4/1	灰色	粘土	かなり強い	黄褐色土粒子2%・明褐色土粒子7%・明褐色土塊2%・黒色土粒子5%・炭粒子2%・炭塊1%	〃
78	10G 5/1	緑灰色	シルト	やや弱め	明褐色土粒子3%・黒色土粒子2%・オリーブ色土粒子15%	〃
79	5Y 4/1	灰色	べッドロ	強い	黄褐色土粒子1%・明褐色土粒子3%・黒色土粒子3%・炭塊2%	〃
80	5Y 4/2	灰オリーブ色	シルト	あり	黄褐色土粒子3%・明褐色土粒子1%・黒色土粒子2%・褐色土塊2%・炭粒子1%	石積遺構1528内埴藪(自然埴藪)
81	7.5Y 4/2	灰オリーブ色	シルト	あり	黄褐色土塊10%・明褐色土粒子3%・黒色土粒子5%・褐色土塊3%	〃(人為的埴藪)
82	7.5Y 3/2	灰オリーブ色	シルト	あり	黄褐色土塊1%・明褐色土粒子2%・明褐色土塊1%・黒色土粒子2%・褐色土塊2%	〃(自然埴藪)
83	5Y 4/4	暗オリーブ色	シルト	やや弱め	黄褐色土塊10%・明褐色土塊5%・黒色土粒子2%・暗緑灰色土塊15%	〃(人為的埴藪)
84	5Y 3/2	オリーブ黒色	粘土	あり	黄褐色土粒子2%・明褐色土粒子5%・灰白色土粒子2%・緑灰色土粒子1%・炭粒子3%・炭土粒子2%・φ10～20mm大の礫少量	〃(自然埴藪)

土種 №	土色	色	土質	しまり	含有物	分類・備考
85	10Y 4/1	灰色	粘土	あり	黄褐色土塊 10%・明褐色土塊 3%・黒色土粒子 3%・青灰色土塊 2%・青色化した木質 5%・炭化木質 1%	〃 (自然堆積)
86	10Y 4/2	オリーブ灰色	シルト	弱い	黄褐色土塊 2%・明褐色土塊 3%・黒色土粒子 2%・緑灰色土塊 5%・青色化した木質 5%・炭化木片 3%	〃 (人為的堆積)
87	7.5GY 4/1	暗緑灰色	シルト	あり	黄褐色土粒子 2%・明褐色土塊 3%・暗オリーブ土塊 7%・青灰色土塊 1%・青色化した木質 3%	〃 (人為的堆積)
88	10YR 4/1	灰色	粘土	やや弱い	明褐色土粒子 3%・黒色土粒子 3%・炭塊 1%・青色化した木質 1%	〃 (自然堆積)
89	7.5GY 6/1	緑灰色	シルト	非常に強い	黄褐色土粒子 10%・黄褐色土塊 5%・明褐色土粒子 7%・明褐色土塊 5%・黒色土粒子 5%・砂礫 2%・木片 1%	〃 (人為的堆積)
90	7.5GY 3/2	緑灰色	シルト	あり	明褐色土塊 3%・黒色土粒子 1%	〃 (人為的堆積)
91	7.5Y 4/1	灰色	シルト	あり	明褐色土粒子 1%・黒色土粒子 2%・緑灰色土粒子 1%	〃 (自然堆積)
92	5Y 4/2	灰オリーブ色	粘土	強い	明褐色土粒子 5%・明褐色土塊 2%・黒色土粒子 5%・オリーブ灰色土粒子 5%・赤色土塊 1%	〃 (人為的堆積)
93	2.5Y 3/1	黒褐色	シルト	あり	明褐色土粒子 2%・黒色土粒子 3%・オリーブ灰土粒子 2%・焼土塊 1%・青色化した木質 1%	〃 (人為的堆積)
94	2.5GY 4/1	暗オリーブ灰色	粘土	やや弱い	明褐色土塊 5%・黒色土粒子 3%・下部に青色化した木質 2%	〃 (人為的堆積)
95	5Y 4/1	灰色	粘土	あり	明褐色土粒子 5%・黒色土粒子 2%・緑灰色土粒子 3%・赤色土粒子 1%・青色化した木質 少量	〃 (自然堆積)
96	7.5GY 6/1	緑灰色	シルト	やや弱い	明褐色土粒子 2%・黒色土粒子 2%・焼土粒子 1%	〃 (人為的堆積)
97	2.5GY 3/1	暗オリーブ灰色	シルト	あり	黄褐色土塊 3%・明褐色土粒子 2%・明褐色土塊 5%・黒色土粒子 3%・暗緑灰色土粒子 2%・炭塊 2%・青色化した木質 5%	〃 (人為的堆積)
98	10BG 6/1	青灰色	粘土	あり	黄褐色土塊 5%・明褐色土塊 7%・黒色土粒子 3%・暗オリーブ色土塊 3%・炭塊 7%・木炭 3%・青色化した木質 2%	〃 (人為的堆積)
99	7.5Y 3/2	オリーブ黒色	粘土	やや弱い	明褐色土粒子 15%・明褐色土塊 5%・オリーブ灰色土粒子 40%・炭塊 3%・炭化木片 2%	〃 (人為的堆積)
100	10Y 4/1	灰色	粘土	やや弱い	黒色土粒子 2%・青色化した木質 2%	〃 (自然堆積)
101	10Y 4/1	暗オリーブ灰色	粘土	あり	黄褐色土塊 5%・明褐色土塊 7%・黒色土粒子 7%・オリーブ灰色土粒子 30%・炭化木片 5%	〃 (人為的堆積)
102	5Y 3/1	オリーブ黒色	シルト	弱い	明褐色土粒子 1%・黒色土粒子 1%・灰オリーブ土粒子 2%	〃 (自然堆積)
103	7.5Y 3/2	オリーブ黒色	シルト	あり	黒色土粒子 2%	〃 (自然堆積)
104	10YR 3/2	オリーブ黒色	シルト	あり	黄褐色土粒子 3%・黒色土粒子 2%・暗灰色土粒子 5%・青色化した木質 1%	〃 (自然堆積)
105	5Y 4/2	灰オリーブ色	シルト	あり	明褐色土粒子 2%・黒色土粒子 1%・炭化木片 1%	〃 (自然堆積)
106	10GY 4/1	暗緑灰色	シルト	強い	黄褐色土粒子 10%・明褐色土塊 20%・炭塊 1%・炭塊 1%	〃 (自然堆積)
107	5GY 4/1	暗オリーブ灰色	シルト	あり	明褐色土粒子 2%・黒色土粒子 7%・暗緑灰色土塊 3%・木炭 2%	〃 (自然堆積)
108	7.5Y 3/2	オリーブ黒色	シルト	やや弱い	黒色土粒子 2%・木炭 2%	〃 (自然堆積)
109	5Y 4/2	灰オリーブ色	粘土	あり	黒色土粒子 30%・灰白色土粒子 1%・炭塊 2%	〃 (自然堆積)
110	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 2%・黄褐色土塊 3%・黒色土粒子 5%・炭塊 2%	沼田土 (近代産)
111	10GY 4/1	暗緑灰色	シルト	あり	黄褐色土塊 2%・明褐色土塊 3%・黒色土粒子 2%・緑灰色土粒子 3%・炭塊 2%	石巻遺構 1528 内堆積層 (自然堆積)
112	7.5Y 4/1	灰色	粘土	強い	明褐色土粒子 2%・黒色土粒子 2%・灰白色土粒子 1%・焼土粒子 2%	〃 (自然堆積)
113	10Y 4/1	灰色	粘土	あり	黄褐色土粒子 2%・明褐色土塊 2%・黒色土粒子 3%・炭塊 2%・焼土粒子 1%・白色化した木質 3%	〃 (自然堆積)
114	7.5Y 3/2	オリーブ黒色	粘土	あり	明褐色土粒子 2%・明褐色土塊 1%・黒色土粒子 1%・灰白色土粒子 2%・緑灰色土粒子 2%・炭塊 3%	〃 (自然堆積)
115	10Y 3/2	オリーブ黒色	シルト	あり	黄褐色土粒子 3%・黄褐色土塊 1%・明褐色土粒子 10%・明褐色土塊 2%・黒色土粒子 2%・緑灰色土塊 5%	〃 (自然堆積)
116	7.5Y 3/2	オリーブ黒色	シルト	強い	黄褐色土粒子 3%・黒色土粒子 1%・緑灰色土粒子 5%	〃 (自然堆積)
117	10Y 3/2	オリーブ黒色	シルト	あり	黄褐色土粒子 5%・明褐色土粒子 15%・明褐色土塊 1%・黒色土粒子 2%・緑灰色土粒子 3%	〃 (自然堆積)
118	2.5GY 3/1	暗オリーブ灰色	粘土	あり	黄褐色土粒子 2%・黒色土粒子 30%・暗灰色土粒子 2%	〃 (自然堆積)
119	7.5GY 4/1	暗緑灰色	シルト	やや弱い	黄褐色土粒子 3%・明褐色土粒子 1%・黒色土粒子 3%・灰白色土粒子 2%・灰オリーブ土粒子 10%・炭塊 3%・青色化した木質 2%	〃 (自然堆積)
120	7.5Y 4/1	灰色	粘土	やや弱い	黄褐色土粒子 2%・黒色土粒子 1%・青灰色土粒子 1%・青色化した木質 1%	〃 (自然堆積)
121	5Y 4/1	灰色	粘土	あり	黄褐色土塊 3%・黒色土粒子 5%・木炭 5%	〃 (自然堆積)
122	7.5Y 4/1	灰色	ヘドロ	あり	黄褐色土粒子 5%・黒色土粒子 50%以上	〃 (自然堆積) 埋積土層下層
123	10YR 7/6	明黄褐色	シルト	非常に強い	明褐色土塊 10%・黒色土粒子 5%・赤褐色土塊 2%・土の割れ目に青灰色土入る	池山
溝 1505						
A	10YR 6/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 10%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 7%・砂礫 5%・炭粒子 2%・炭塊 1%	
B	10YR 5/6	黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 10%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 2%・暗灰色土粒子 10%・砂礫 3%・炭粒子 2%	
C	10YR 4/4	褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 7%・黄褐色土塊 3%・黒色土粒子 5%・φ 5mm 大の礫 1%・炭粒子 2%・焼土粒子 1%	
D	10YR 4/6	褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 10%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 2%・砂礫 10%・φ 25~30mm 大の礫少量・炭塊 1%	
E	10YR 5/1	暗灰色	シルト	強い	黄褐色土粒子 5%・黒色土粒子 2%・砂礫 3%・φ 10~15mm 大の礫 1%・炭粒子 3%・炭塊 2%	
F	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 7%・黄褐色土塊 2%・砂礫 5%・炭塊 1%	
G	10YR 4/6	褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 3%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 3%・砂礫 7%・炭塊 1%・焼土塊 1%	
H	10YR 6/1	暗灰色	シルト	強い	黄褐色土粒子 2%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 2%・砂礫 30%	
J	10YR 5/3	にぶい黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 7%・黒色土粒子 3%・砂礫 5%・炭粒子 2%・炭塊 1%	
K	10YR 6/6	明黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 5%・黒色土粒子 3%・砂礫 5%	
L	10YR 5/8	黄褐色	シルト	強い	黄褐色土塊 5%・明褐色土塊 5%・黒色土粒子 3%・炭塊 1%	
M	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 3%・砂礫 2%・炭塊 2%	

土層 No	土色	色	土質	しまり	含有物	分類・備考
N	10YR 5/3	にぶい・黄褐色	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子 10%・黄褐色土塊 7%・黒色土粒子 5%・砂礫 35%・炭粒子 3%	
溝 1508						
O	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 2%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 1%・暗赤褐色土粒子 10%・炭粒子 2%・炭塊 3%	
土坑 1527						
P	10YR 5/4	にぶい・黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 7%・明褐色土粒子 2%・黒色土粒子 3%・砂礫 5%・炭粒子 2%・炭塊 5%	
Q	10YR 5/3	にぶい・黄褐色	シルト	あり	黄褐色土粒子 3%・黄褐色土塊 2%・明褐色土粒子 3%・黒色土粒子 2%・砂礫 2%・炭粒子 5%・炭塊 2%・焼土粒子 1%	
R	10YR 5/2	灰黄褐色	シルト	あり。2層目より強い	黄褐色土粒子 3%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 2%・砂礫 1%・炭粒子 3%・炭塊 5%	
S	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 3%・黄褐色土塊 5%・明褐色土粒子 3%・黒色土粒子 3%・砂礫 2%・ ϕ 20～30mm 大の礫極少量含む。炭粒子 7%	
T	10YR 4/2	灰黄褐色	シルト	強い	黄褐色土粒子 2%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 2%・砂礫 7%・炭粒子 3%・炭塊 2%	
4A2 トレンチ						
壁面土層						
1	10YR 5/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 5%・ ϕ 50mm 大の礫 5%・炭粒子 5%・焼土粒子 1%・耐火 10%	旧表土 (耕作土)
2	10YR 5/6	黄褐色	粗砂+シルト	やや弱め	褐色土粒子 30%	地山 (東山)
3	10YR 4/6	褐色	粗砂	あり	ϕ 70mm 大の礫 50%以上・耐火多量	〃
4	10YR 4/4	褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 20%	〃
5	10YR 4/4	褐色	シルト	弱め	ϕ 10mm の礫 30%・ ϕ 30～70mm の礫 1%	〃
6	10YR 4/4	褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 15%	〃
7	10YR 4/4	褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 5%・ ϕ 5mm 大の礫 10%	〃
8	10YR 3/4	暗褐色	粗砂+シルト	弱め	ϕ 5mm 大の礫 10%	〃
9	10YR 3/4	暗褐色	粗砂+シルト	弱め	黄褐色土粒子 10%・ ϕ 5mm 大の礫 10%	〃
10	10YR 5/4	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	ϕ 5mm 大の礫 5% 階状に入る	〃
11	10YR 5/4	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	ϕ 50mm 大の礫 5%	〃
12	10YR 4/6	褐色	粗砂	あり	ϕ 50～300mm 大の礫 70%・耐火多量	〃
13	10YR 4/3	にぶい・黄褐色	粗砂+シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 30%・ ϕ 10mm 大の礫 5%	旧表土下の埋土
14	5Y 4/1	灰色	砂質	弱め	褐色土粒子 10%・ ϕ 3mm 大の礫 5%・炭粒子 1%	〃
溝 1522						
A	10YR 5/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 10%・ ϕ 50mm 大の礫 5%	暗渠
土坑 1529						
B	10YR 5/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 5%・ ϕ 5mm 大の礫 5%・炭粒子 1%	
C	10YR 5/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 30%	
D	10YR 4/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 5%・暗褐色土粒子 5%・炭粒子 1%	
E	10YR 4/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 5%・暗褐色土粒子 30%・ ϕ 20mm 大の礫 5%・炭粒子 1%	
不明遺構 1530						
F	10YR 4/4	褐色	粗砂+シルト	ややあり	黄褐色土粒子 5%・ ϕ 3～10mm 大の礫 10%・ ϕ 20mm 大の礫 10%	
G	10YR 3/4	暗褐色	粗砂+シルト	ややあり	褐色土粒子 10%・ ϕ 3～5mm 大の礫 10%	
溝 1520						
H	10YR 4/4	褐色	シルト	ややあり	黄褐色土粒子 礫 30%・ ϕ 5～30mm 大の礫 5%	
I	10YR 4/4	褐色	シルト	ややあり	黄褐色土粒子 礫 5%・ ϕ 5～30mm 大の礫 1%	
不明遺構 1531						
J	10YR 4/4	褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 50%・ ϕ 15mm 大の礫 1%	
不明遺構 1532						
K	10YR 4/4	褐色	シルト	ややあり	黄褐色土粒子 1%・黄褐色土塊 1%・黒色土粒子 5%・ ϕ 5～10mm 大の礫 1%・炭粒子 1%	
L	10YR 4/4	褐色	粗砂+シルト	ややあり	黄褐色土粒子 1%・黒色土粒子 15%・ ϕ 20mm 大の礫 15%	
M	10YR 4/4	褐色	粗砂+シルト	弱め	ϕ 70mm 大の礫 70%・砂礫少量	
N	10YR 4/4	褐色	シルト	ややあり	黄褐色土粒子 5%・ ϕ 50mm 大の礫 5%	
O	10YR 4/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	ϕ 10mm の礫 5%・炭粒子 1%。表土に類似	
P	10YR 4/3	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	ϕ 50～150mm 大の礫 50%	
Q	10YR 4/4	にぶい・黄褐色	シルト	弱め	ϕ 40mm 大の礫 70%	
溝 1521						
R	10YR 4/4	褐色	シルト	弱め	黄褐色土粒子 礫 30%・ ϕ 30mm 大の礫 15%。炭粒子 礫 10%	
S	10YR 4/4	褐色	粗砂+シルト	弱め	黄褐色土粒子 5%。炭粒子 1%。 ϕ 3mm 大の礫 5%	
5	10YR 4/4	褐色	粗砂+シルト	弱め	黄褐色土粒子 5%。R 層に類似	
4C1 トレンチ						
壁面土層						
1		面積土				
2a	10YR 3/2	黒褐色土	シルト	非常に強い	黄褐色土粒子 3%・褐色土粒子 1%・ ϕ 10～15mm 大の礫 2%	古代遺物包含む
2b	10YR 3/1	黒褐色土	シルト	かなり強い	黄褐色土粒子 15%・黄褐色土塊 10%・黒色土粒子 5%・ ϕ 20～30mm 大の礫 1%	〃
2c	10YR 3/2	黒褐色土	シルト	強い	黄褐色土粒子 7%・黄褐色土塊 5%・黒色土粒子 30%・炭粒子 30%・炭塊 1%・焼土粒子 微量	〃
3	10YR 4/2	灰黄褐色土	シルト	強い	黒色土粒子 7%・明黄褐色土粒子 20%・明るい黄褐色土塊 5%・褐色土粒子 30%・焼土粒子 1%	旧地表土
4	10YR 5/6	黄褐色	粘上	あり	黒色土粒子 10%・黒色土塊 2%・明るい黄褐色土塊 30%・暗灰色土塊 20%・ ϕ 15～20mm 大の礫 7%・R～10mm 大の礫 7%	地山

第3節 遺物

1 焼物（第4表・第14図）

(1) 概要

今回の調査においても、各トレンチからの中世以前に位置付く焼物の出土量は非常に少ない。本報告では、縄紋土器2点、奈良・平安時代の焼物11点、中世の焼物8点、計21点を図示したが、いずれも小破片で全形を復元しうるものはない。また、中世の遺物は出土しすべてを提示している。

(2) 4A1 トレンチ出土の焼物（1～4）

4点出土した。いずれも中世に帰属する。1は1面整地土から出土した土師質土器皿の口縁部片で、強く外反するが口径は復元できない。非常に精良な白い胎土でかつ薄手である。磨滅のためロクロ成形か否かは判定できないが、胎土・器形のあり方から、京都系の皿を模倣したものと考えられる。2・3は内耳鍋の破片である。2は2面整地土から出土した口縁部片で、若干開き気味になりながらもほぼ直に立ち上がる。薄手で、ヨコナデにより内面に1条の凹線を作り出す。3は石積遺構1528西壁天端の粘土層から出土した頸部～胴上部の破片で、2とは対照的に非常に肉厚である。胴部はやや開き気味で、そこから屈折して外開する口縁部が立ち上がるものと思われる。4は石積遺構1528の底面付近から出土した古瀬戸後期の三足盤で、推定口径29.6cmである。大きく直開する口縁部は内面を平滑に仕上げるのとは対照的に、外面には屈曲の大きいロクロ目を残し、下半部には回転ヘラケズリを行う。口唇部は内面に折り返し突帯状を呈する。内外面に細かな貫入を伴う灰釉を施し淡黄灰色を呈する。Ⅳ期新段階に位置付くとの所見を得た。

(3) 4A2 トレンチ出土の焼物（5～9）

5点図示した。5・6は土坑1524から出土した縄紋土器の深鉢片である。5はほぼ直立する口縁部片で、口唇部は丸く取める、外面直下には櫛歯状工具の刺突による縦位等間隔の列点紋帯が巡り、1条の横走列点紋を介して下位には大粒の単節斜縄紋を施している。6は胴部片で、器面が荒れるが横方向の条痕が見える。胎土に植物繊維を少量含む。いずれも前期前葉に位置付き、5は神ノ木式土器の特徴を示すものであろう。

7は土坑1515から得られた黒色土器Aの杯ないし碗の小片、8は溝1522から出土した回転系切り痕を有する須恵器杯Aの底部片で、ともに奈良・平安時代のものである。

9は中世の土師質土器皿で、分厚く径の大きい平らな底部を有する。口縁部の立ち上がりは直開する。回転系切り痕を有するロクロ成形品で、砂質だが固く焼きしまる。

(4) 4C1 トレンチ出土の焼物（10～20）

遺物包含層から土師器52点・須恵器182点・中世の焼物3点が出土し、うち図化可能な12点を提示した。10～13は杯蓋Bで、10は扁平なつまみを付す。11のつまみはつぶれた宝珠状で天井部には回転ヘラケズリを施す。内外に火燂痕が顕著に残る。12・13は裾部の破片で、天井部外周はあまり反らずやや幅広く屈曲のない裾端部を下ろす。14・15は杯Aで、回転系切りによる大きい底部からやや強い角度で胴部が立ち上がる。16・17は杯Bの底部である。いずれも底部を回転ヘラケズリで整えた後外開する断面方形の高台を貼付する。18は大型の長頸壺Aの頸部片と考えられる。これらは概ね8世紀末～9世紀初頭の所産と推定される。

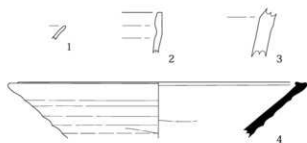
19～21は遺物包含層上面から得た中世の焼物である。19は東海系無釉陶器の捏鉢で、口唇部を丸く取める。土師質土器の20・21は非ロクロ成形の皿で、推定口径は20が7.4cm、21が8.2cmである。底部

外面はナデ・オサエ痕を残し、胎土は砂粒を含まず精良。鎌倉時代（13世紀）に帰属し当該期の皿は今回が初出である。

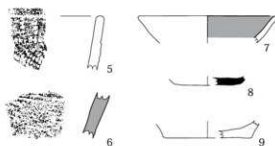
第4表 焼物一覽

探 堀 区 画	出土地点		胎土		法厚 (mm)			残存度		色調		成形・調整・形部の特徴	
	面	遺構	種類	形状	口径	底径	胎高	口縁	底部	釉	胎土		
1	4A1	1	1面型地 (13層)	土加質土器	皿					わずか	淡白黄～ 緑灰黄	口縁コナテガケ、内面内厚減、胎土精良	
2	4A1	2	2面型地 (17層)	土加質土器	内山皿					わずか	淡黄	口縁コナテ、胎土良	
3	4A1	4	7層遺構 1528	土加質土器	内山皿						黄～黒黄	内外面ナデ、口縁コナテ、胎土良、調整片	
4	4A1	4	7層遺構 1528底面	陶器(古瀬戸)	三足器	(29.6)			1/11	灰釉	淡黄灰	ロクロナデ、口縁コナテ、胴下半部回転ヘラケズリ、内外面無釉、胎土劣	
5	4A2		土灰 1524	陶器	深鉢					わずか	暗黄	外面斜交列点紋・欄段(取)、内面ナデ	
6	4A2		土灰 1524	陶器	深鉢						暗黄～黒黄 (含瀬戸)	外面斜交条痕紋、内面ナデ、調整片	
7	4A2		土灰 1515	黒色土器A	杯・Ac 椀	(13.8)			1/8		淡黄～黒	ロクロナデ、口縁コナテ、内面ミガキのち黒色処理、胎土劣	
8	4A2		黄 1522	黒色土器	杯A	(6.8)			1/2		灰	ロクロナデ、底縁回転糸切り、胎土劣、底部片	
9	4A2		白灰土(1層)	土加質土器	皿	(8.8)			1/5		淡黄	ロクロナデ、底縁回転糸切り、胎土良、底部片	
10	4C1		2 b層	黒色土器	杯・B					つまみ 完	灰	大月部回転ヘラケズリ、内面ロクロナデ、つまみ部取付のちナデ、胎土劣	
11	4C1		2 c層	黒色土器	杯・B					つまみ 完	灰～黒灰	ロクロナデ、大月部回転ヘラケズリ、つまみ部取付のちナデ、内外面に火打すき痕あり、胎土劣	
12	4C1		2 c層	黒色土器	杯・B	(14.3)			1/11		灰～黒灰	ロクロナデ、端部コナテ、胎土劣	
13	4C1		粟刈合瓣	黒色土器	杯・B	(14.3)			1/10		灰～淡灰	ロクロナデ、端部コナテ、大月部回転ヘラケズリ、胎土劣	
14	4C1		粟刈代輪出番	黒色土器	杯A	(6.7)			1/6		淡灰	ロクロナデ、底縁回転糸切り、胎土劣、底部片	
15	4C1		2 b層	黒色土器	杯A	(8.2)			1.8		灰～黒灰	ロクロナデ、底縁回転糸切り、胎土劣、底部片	
16	4C1		2 b層	黒色土器	杯B	(8.3)			1/4		暗灰	ロクロナデ、底縁回転ヘラケズリ・高台取付のちナデ、足込厚減、胎土劣、底部片	
17	4C1		粟刈合瓣	黒色土器	杯B	(10.1)			1/5		灰	ロクロナデ、底縁回転ヘラケズリ・高台取付のちナデ、胎土劣、底部片	
18	4C1		2層	黒色土器	長脚碗A						灰～黒灰	ロクロナデ、胎土劣、調整片	
19	4C1		粟刈合瓣	陶器 (東海系無釉)	酒杯					わずか	無釉	淡灰	ロクロナデ、口縁コナテ、口縁～内面白粉焼、胎土劣
20	4C1		粟刈合瓣	土加質土器	皿	(7.4)			1/10		淡黄	外面ナデ・オサエ、口縁～内面コナテ、手づくね成形、胎土精良	
21	4C1		粟刈合瓣	土加質土器	皿	(8.2)			1/9		淡黄	外面ナデ・オサエ、口縁～内面コナテ、手づくね成形、胎土精良	

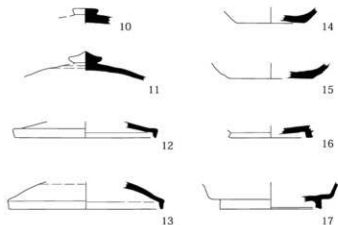
4A1 トレンチ (1～4)



4A2 トレンチ (5～9)

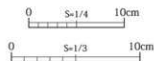


4C1 トレンチ (10～21)



縮尺

5・6 : 1/3
その他 : 1/4



第14図 焼物

2 石器・石製品（第5表、第15図）

合計18点の石器が出土した。器種の内訳は、石鏃1点、スクレーパー類3点、つき臼1点、硯3点、砥石1点、二次加工ある剥片2点、微細剥離ある剥片1点、剥片5点、不明1点である。これらのうち定型的な石器・石製品を中心に9点を図示し、概要を記すが、そのほかのものは一覧表を参照されたい。

石鏃（1）1はチャート製の無茎凹基鏃である。側辺がやや内湾し、左右非対称の形状をしている。片脚が折れている。

スクレーパー類（2～4）2は黒曜石製で刃部が約30°の削器である。縦長剥片を素材にし、両面加工の外湾刃を有する。刃部とは反対側の側縁の1/2程度に微細剥離痕が認められる。3はチャート製で刃部が約80°の削器である。刃部は1側縁の約2/3程度に両面加工で作られている。反対側の側縁にも調整剥離がわずかに認められ、刃部である可能性がある。4は珪質頁岩製で刃部が約70°の削器である。主要刃部は打面部に作出されている。側縁にも片面加工で調整された刃部が認められる。

つき臼（5）5は安山岩製で、3/4は破損により失われている。中形の円球状礫を素材にしていると推定でき、凹部は最大厚の2/3程の深さである。出土状況と凹部の形状から、5は奈良・平安時代に帰属すると考えられる。

硯（6～8）いずれも破損品で、全面に熱を受けている。石材は在地産と思われる粘板岩である。6は横断面が逆台形を呈し、底面に幅7mm程のノミによる整形痕が認められる。

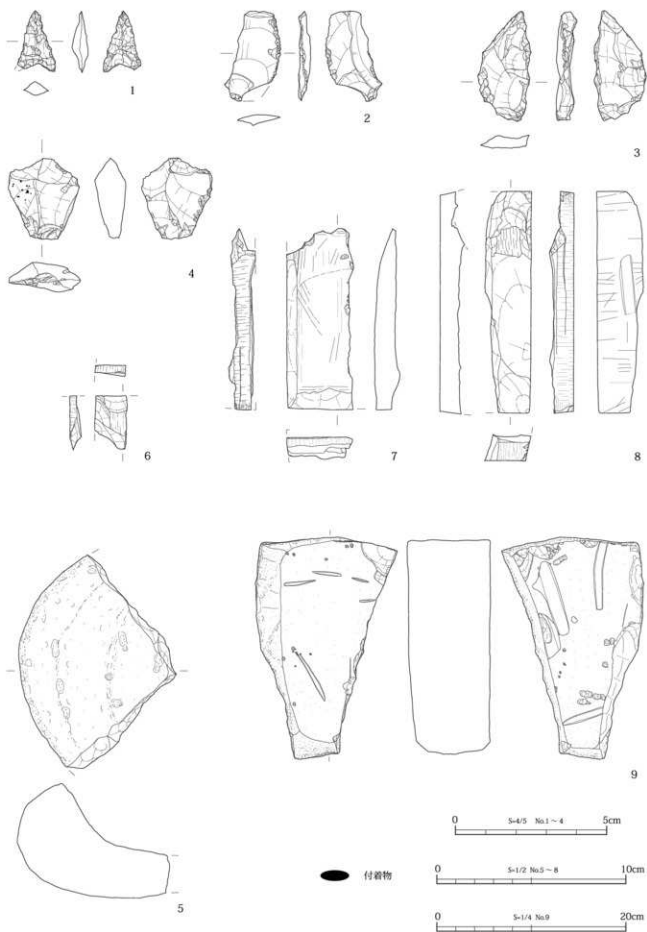
砥石（9）9は安山岩製で、表面の一部が剥落しているものの、ほぼ完形である。素材は平面形が三角形の角礫である。5kg近い重量をもつため、置き砥石と考えられる。明瞭な砥面を有さず、台石として使用された可能性があるが、表裏面に幅3～13mm程のノミを研いだ（または削った）様な痕跡が認められることから、ここでは砥石とした。

第5表 石器・石製品一覧

図 No.	注 記 No.	器種	地区	検出面	遺構名	出土位置 掘削区・番号	石材	寸法 (cm) ※1			重量 (g) ※2	破損状況	備考
								最大長	最大幅	最大厚			
						整地上 (下層)							
9	2	剥片	4A1	2-3		直刃7	頁岩?	(3.90)	(2.41)	(8.50)	(6.0)	5面折れ	
9	1	砥石	4A1	4	石積遺構 152B		安山岩	22.90	15.40	8.90	4780.0	表面部分的に剥落	表面面に幅3～13mm程度の砥石痕あり。置き砥石
3	3	不明 (石片?)	4A1	4	石積遺構 152B		安山岩	13.51	13.12	5.11	1620.0		やや扁平な立方体状の礫。加工・使用痕は認められない。表面に微熱痕とスス・4側辺にスス付着
8	4	硯	4A1	4	石積遺構 152B		粘板岩	(1.71)	(2.35)	(1.51)	(6.0)	2面折れ (微熱痕跡あり)	裏面に彫による加工痕あり。全面微熱。断面台形
7	5	硯	4A1	4	石積遺構 152B		粘板岩	(9.57)	(3.32)	(1.31)	(61.2)	3面折れ (微熱痕跡あり)	全面微熱
6	6	硯	4A1			不明	粘板岩	(2.81)	(1.64)	(0.55)	(3.6)	側部の一部のみ残存 (微熱痕跡あり)	全面微熱
2	7	削器	4A2		土1524		黒曜石	2.96	1.78	0.37	1.4	1面折れ	加工1側縁(両面加工)、1側縁微細剥離痕あり
8		剥片	4A2			凹表上	黒曜石	1.13	1.05	0.27	0.3		
4	9	剥片	4A2			凹表上	珪質頁岩	2.63	2.28	0.83	5.0		加工2側縁(未端部片面加工・側辺部両面加工)
10		剥片	4A2			凹表上	チャート	(9.79)	1.22	0.53	(9.3)	1面折れ	
		硯	4A2			凹表上	チャート	(1.51)	(1.42)	(0.49)	(1.2)	1面折れ	
3	11	削器	4A2			凹表上	チャート	3.61	1.63	0.60	3.9		加工2側縁(それぞれ両面・片面加工)
12		MF	4A2			凹表上	黒曜石	1.71	1.33	0.33	0.4		微細剥離痕1側縁
13		RF	4A2			凹表上	チャート	2.48	5.17	0.94	(14.1)	1面折れ	加工3側縁(片面加工)
14		石鏃	4A2			凹表上	チャート	(2.03)	(1.25)	0.49	(9.8)		無茎凹基鏃。側辺やや内湾
15		RF	4A2			検出面	黒曜石	(3.72)	(1.62)	(9.38)	(1.0)	1面折れ	1側縁(打面部加工)
5	16	つき臼	4A2			検出面上	安山岩	(8.31)	(8.28)	(5.95)	(435.1)	3/4折れ	大径(表)最大・凹部深さ3.72cm、厚(裏)最大・径1.1
17		剥片	4A2			検出面上	チャート	2.46	2.36	0.71	3.8		
18		剥片	4C1			遺物付合層	チャート	2.53	2.62	0.79	5.7		

※1 寸法欄の()は残存部をあらわす

※2 1200g未満は0.1g単位、1200g以上は10g単位



第15図 石器

3 木製品 (第6表、第16図)

4次調査においては、4A1 トレンチより36点の木質遺物が出土した。その内15点を図示し報告する。

短冊状板(1~4・6・12・15) 1は完形品である。3は円形の削り抜きがみられる。4の表面には曲物の側板に見られるケビキ線がある。15は片面に墨書が認められるが読解はできない。すべて片面あるいは両面に削り調整が施されており、1面だけの調整の場合はそちらが表面として意識されていたと推定される。

部材(5・7・8) 本来ある種の組立品の部材と考えられる。5は木口の角をとるための平面削りが施されている。7・8は完形品である。8は上端に杵状の加工がなされている。

齋串状木製品(9) 殿村遺跡の特徴的な木製品であり、これまでの報告では「箸状木製品」としてきたものである。1次調査の未報告品も含め詳細に観察すると、箸としての機能性を持たないと推定されるものが多いこと、箸とすれば供に使用されたであろう椀・皿や折敷等が共伴しないこと、1次調査概報で報告した刀形、後述する馬形のように形代が出土し、2次調査報告書で示したとおり箸状木製品を齋串として捉えられる類例が多いことを重視し、本報告から祭祀具としての「齋串状木製品」と総称することにした。9は数少ない完形品で、削り出しによって作られている。両先端を非常に細く削るのが特徴である。

馬形木製品(13) 古代の馬の形代がかなりデフォルメされたものである。しかし鞍の作り出しは古代の馬形と全く同じで、中世においても祭祀具として馬形が存在したと判断してよいと思われる。なお、鞍のない馬形木製品の例で、石川県桜町遺跡では406点のハシ状木製品にくるまれて出土している(四柳嘉章1996)。

端材(14) 表面は丁寧に削り調整されているが、裏面は荒い削りの状態になっている。おそらく角材から削り取られた不用な部分と思われる。

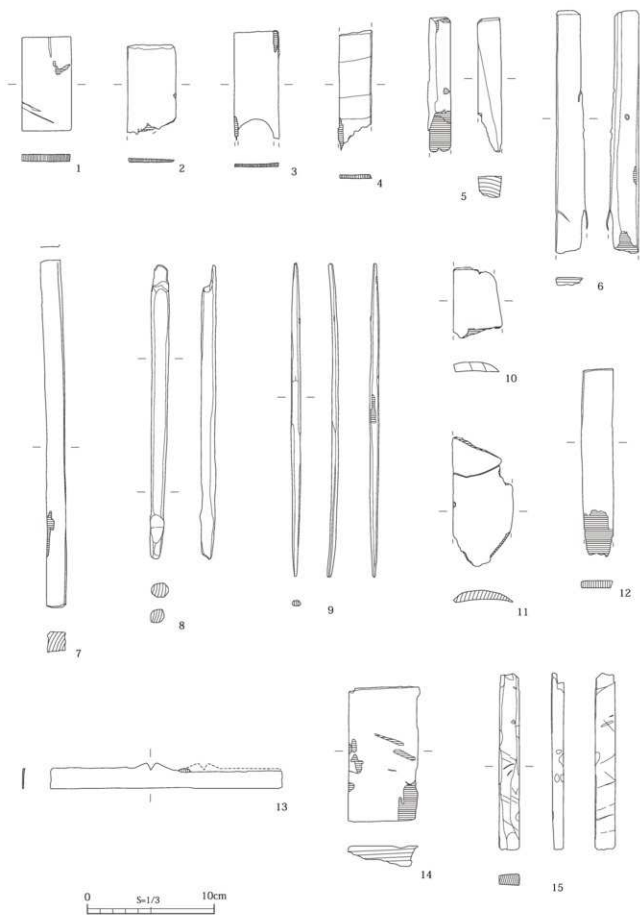
不明品(10・11) ややアールに成形された木製品で、木端は生きてると推定される。表面は非常に丁寧に削り調整されている。同様な破片が複数あるが接合せず形は不明である。

<引用文献>

四柳嘉章 1996 「西川島遺跡群」『飾る・遊ぶ・祈るの木製用具』北陸土器研究会

第6表 木製品一覧

図号	地区	面	遺構	整理番号	器種	手法	寸法 (cm)			備 考
							長・口部・底径	幅	厚・高	
1	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	001	短冊状板	板材 (楮目)	7.00	3.70	0.55	木口両端切り落し / 表面削り / 裏面削りっぱなし
2	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	002	短冊状板	板材 (楮目)	(6.70)	3.60	0.30	木口上端平面削り / 表裏削り
3	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	003	短冊状板	板材 (楮目)	(8.20)	3.30	0.20	上端木口切落し / 円形のくりぬきがある
4	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	004	短冊状板	板材 (楮目)	(9.10)	2.40	0.30	木口一端平面削り / 表裏面削り / ケビキ線あり
5	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	007	部材	角材 (楮目)	(10.10)	1.80	1.58	木口木口溝し後に角を平面削り / 表面削り / 裏面削り
6	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	008	短冊状板	板材 (楮目)	(18.20)	2.10	0.58	木口切り落しと後平面削り / 中央部貫通しない孔あり
7	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	006	部材	角材 (楮目)	26.10	1.50	1.50	木口切り落し / 表面加工無し
8	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	013	部材	削り出し	22.20	1.35	1.05	形状と推定される / 一端杵状に加工
9	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	011	齋串状木製品	削り出し	23.50	0.70	0.40	ほぼ完形
10	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	009	不明	板材 (楮目)	(5.30)	3.61	0.61	木端は生きた / 表面丁寧に削り / わずかに湾曲する
11	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	010	不明	板材 (楮目)	(9.70)	4.50	0.80	10と同様の加工
12	4A1	4面	73 部 (石積遺構 1528 北東)	015	短冊状板	板材 (楮目)	(14.10)	1.35	0.55	木口一端切り / 表裏削り
13	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	012	馬形木製品	板材 (楮目)	17.40	1.90	0.12	鞍部半分欠損
14	4A1	4面	石積遺構 1528 122 層	005	端材か	板材 (楮目)	10.20	(5.20)	1.50	木口切り落し / 表面削り / 裏面削りっぱなし
15	4A1	4面	石積遺構 1528 上層	014	短冊状板	板材 (楮目)	(13.28)	1.50	0.85	表裏ケツガラス状削り / 断面あるが読解できない



第16図 木製品

第三章 まとめ

これまで報告してきたように、殿村遺跡調査事業の3年目は1次調査で確認された平場の東部および北西部における状況を把握し、さらに旧会田中学校校舎周辺での遺跡の広がりを確認する目的で実施した。諸般の事情により調査面積を大きく確保することができず、そのうえ石積を伴う15世紀の4面に到達するには上層の1・2面を壊さなければならないという制約のため、毎回のことながら非効率な調査で、十分な調査成果を得られたとは言えないが、最後に成果と課題についていくつかを取り上げ、本調査のまとめとしたい。

1 平場東縁部の状況について

4A1 トレンチの調査で、部分的ながら平場東縁部に関わる以下のような所見が得られた。総じてこれまでの推定どおり、4面段階から1面段階まで順次平場が東に拡張されていく状況が浮かび上がった。

① 4面段階の平場東縁の切岸が検出された。切岸は風化岩盤に由来する固く締まったシルト層の地山を削り込んでおり、おそらくこの段階では会田中学校のある遺跡東側の尾根裾部がここまで延びてきていたと考えられる。今回の所見と1次調査における断面調査所見を総合すると、第4図に示した推定線のように4面段階の平場（正確には今回調査地点周辺は一段低い窪地状地形面）範囲を復元できる。

② 2・3面段階は、4面の埋め立てとともに切岸を削平してさらに東に平場を拡大させている。しかし、現状の市道により、その東縁の広がりや構造は確認できない。

③ 1面段階の平場では、東縁部に沿って南北方向に土塁を構築している。1次調査において、土塁の西法戻線は確認されていたが、今回基底部の構造と規格が判明したものである。土塁東縁を区切る溝1505はさらに整地土で埋め立てられており、土塁そのものも拡幅等の改修を受けた可能性がある。

この土塁が果たして平場の東縁そのものを表すのか、あるいはさらに東側に別の平場空間を形成していたのか、残念ながら市道開削で破壊を受けているため確かめることができない。しかし、南北方向における土塁の状況については、今後のさらなる調査の中で確認を進めたい。

2 平場北西部の状況について

4A2 トレンチの調査により平場北西部における状況が確認された。このトレンチを理解するうえで参考となるのが1次調査E・Hトレンチで、いずれにおいても厚さを伴う整地造成土は認められず、地山を削平して平面を形成している様子が確認された。その時期は1面段階と考えられ、とりわけ平場により近いHトレンチでは多数の遺構が検出されている。一方で4A2トレンチ周辺は盛土あるいは削平いずれの痕跡もなく、緩く自然に西に下っていく自然地形面をなしていたようである。近世以降の遺構や攪乱のため断定的なことは言えないまでも、トレンチ東部にはHトレンチからの延長と考えられるピット群が続いており、1面段階においては平場空間の北西の一角に当たっていたと考えられる。しかし残念ながら、土塁等区画施設の痕跡を捉えることはできなかった。西縁部の状況についても、今後4A2トレンチより南側における状況を確認する必要がある。

3 4面の石積遺構1528について

石積遺構1528は、4面において検出されたことと底面付近から古瀬戸後期IV段階とみられる三足盤が出土したこと等により、15世紀後半を中心とした時期の所産であることが確認された。その性格については当初水溜施設と想像していたが、現在採取土壌の分析を進めている辻誠一郎氏から寄生虫卵の大量検出との

報を受けたことにより、便所遺構の可能性が高まった。これについては詳細な分析結果の報告後にあらためて考察したい。ここでは、壁面を構成する石積の特徴について、同じ15世紀に位置付く4面石積Aや石積B1～B3等と構造を比較し整理しておきたい。

まず、これらの石積すべてに共通する特徴としては、原則として未加工の積石を垂直に積み上げ、せいぜい1～1.2m、3～6段積み程度と背丈が低い。背面は裏込栗石を伴わず版築土だけで支持している。角部は造らないか、あっても積石のかみ合わせを伴う構造とはならない等の点を指摘しうる。

次に、積石の形状や用い方について、これまで検出された主な石積を次のように整理しておきたい。

① 古い段階の石積は積石を長手にとるが、とりわけ下段には大振りな石材の広い面を表に向け衡立のように立てる。従って幅に対して控えは小さい。その上に小振りの積石を2、3段階積み上げる。横目地はあまり意識されず乱積みに近い。天端では控えが長い小口積みとする箇所が見られる。積石は比較的角張った垂角礫が多用される。石積Aの西部、石列8、石積B1等がこの例である(写真図版14上)。

② 新しい段階の石積は、積石に垂角礫あるいは垂円礫を使用し、全体的にやや小振りになり大きさも比較的揃う。控えが幅とほぼ同寸かやや長い小口積みに近くなる。前段階より横目地への意識が増し、天端では明らかに控えの長い小口積みが実施される。石積B2・B3等が該当する(写真図版14中・下)。

では今回検出された石積遺構1528ではどうか。まず、基本構造についてはこれまで検出された石積に共通する。一方、積石には扁平・横長の石材を多用する傾向が窺え、とりわけ最下段では徹底している。これが時期差に起因するものなのか、あるいは築造目的の違いに起因するものなのかはにわかに判断できない。

次に、とりわけ興味深い特徴として、北西隅において基底部の積み出しでは長方形基調となるものの、積み上げに従い角が取れ、天端では隅丸形状になっている点が挙げられる。一方、北東隅では角張った状態で天端まで積み上げが行われるものの、両側面の築石は小振りでほとんど噛み合わされることがない。こうしたあり方は、この段階の石積においては技術的に角部を造り出すことが難しかったことを示しているのではないだろうか。1次調査における石積B2・B3の屈折部と共通するあり方と言えよう。

4 遺跡東部の状況について

平成22年度に実施した長安寺南側における調査(2C1トレンチ)では、現在のゲートボール場の建つ段(かつて会田小学校の校庭が存した)においては整地土を伴う中世の造成が広がっていることが確認された。おそらくゲートボール場建物南側には切岸が存在し、北側は旧会田中学校の木造校舎建設あるいはそれ以前の会田小校庭造成に際し拡張され、本来の平場背後の切岸は失われていると想定された。

今回の調査は、それより一段下がったゲートボール場南側の段で実施したが(4C1トレンチ)、ここでは元々西から東に緩く傾斜して下がっていく地形だったようで、学校建設等の造成により西半部は著しく削平を受けている。旧地形の残る東側では、2A1トレンチとは対照的に中世の整地土は全く存在せず、表土直下で奈良・平安時代の遺物包含層が現れた。また調査が十分とは言えないが、中世造成面はこの段までは及んでいなかった可能性が高い。しかし、遺物包含層上面から13世紀代に位置付く土師質土器が2点、東海系無釉陶器の捏鉢が1点出土した。当該期の遺物は2A1トレンチにおいても整地土下から鐘蓮弁の青磁碗を得ており、この周辺において大規模な造成の開始以前の段階における営みがあったことを示しており、小破片ながら注目すべき出土遺物と言える。1次調査A区における整地土下の5面段階の遺構とともに、殿付遺跡の中世開始期の様相についても、今後調査を進めていかなければならないであろう。

以上、これまでの成果も交えながら今回の調査成果について、いくつかの点的に絞ってまとめてみた。

最後に、調査に今回の調査実施に際してご指導をいただいた調査指導委員会をはじめとする諸先生方、調査の遂行に際し理解と協力を惜しまれなかった地元の皆様方に感謝を申し上げ、本書の締めくくりとしたい。



殿村遺跡・旧善光寺街道会田宿と虚空蔵山麓の景観（南から）



殿村遺跡（●印）と会田盆地の地形（虚空蔵山中ノ陣城上空から南を見る）



調査地の位置と周辺の地形 (S = 1 : 2500)



4A1 トレンチ 4 面全景 (南から)



4A1 トレンチ 4 面全景 (東から)



4A1 トレンチ北壁土層断面 (A-A')



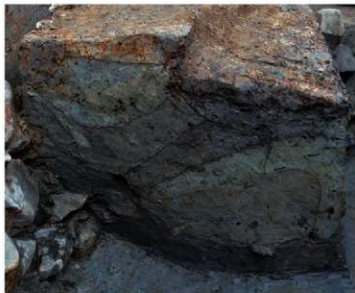
4A1 トレンチ南壁土層断面 (B-B')



石積遺構 1528 内南面堆積状況 (B-B' 拡大)



トレンチ西拡張部北壁土層断面 (D-D')



石積遺構 1528 内西面土層断面 (J-J')



石積遺構 1528 内北面土層断面 (I-I')



石積遺構 1528 および切岸の状況 (西から)



石積遺構 1528 完掘状況 (南西から)



石積遺構内古瀬戸三足盤出土状況 (南から)



石積遺構内硯出土状況 (南東から)



石積遺構内斎串状木製品出土状況



石積遺構 1528 西面天端の粘土被覆状況（東から）



石積遺構 1528 西面



同・北西隅



同・北面



同・北東隅



同・東面



P1526 完掘状況



石列 25 に伴う粘土層南断面 (B - B' 部分)



石列 25 (粘土層除去前)



4A1 トレンチ 2 面検出状況(粘土層除去後)



溝 1508 (左)・溝 1505 (右) 土層断面 (A - A' 部分)



溝 1505 (左)・土 1527 (中央)・溝 1508 (右) 土層断面 (B - B' 部分)



4A1 トレンチ1面完掘状況(南から)



1面遺構完掘状況(東から)



溝 1505 内南部 柱痕 1 検出状況(西から)



溝 1505 内北部 柱痕 2 検出状況(北から)



4A1 トレンチ西部東面土層断面 (E-E)



4A2 トレンチ全景 (北東から)



土 1524 (南から)



溝 1522 (左)・溝 1521 (中央)・溝 1520 (右) 完掘状況 (北から)



溝 1522 南壁土層断面 (A-A' 部分)



溝 1520 南壁土層断面 (A-A' 部分)



4C1 トレンチ全景、奈良・平安時代包含層 (東から)



奈良・平安時代包含層遺物出土状況 (北から)



同上 (南から・白線は土1504)



トレンチ西部地山検出状況 (西から)



奈良・平安時代包含層土層断面西部 (A-A'部分・北から)



同上・東部 (A-A'部分・北から)



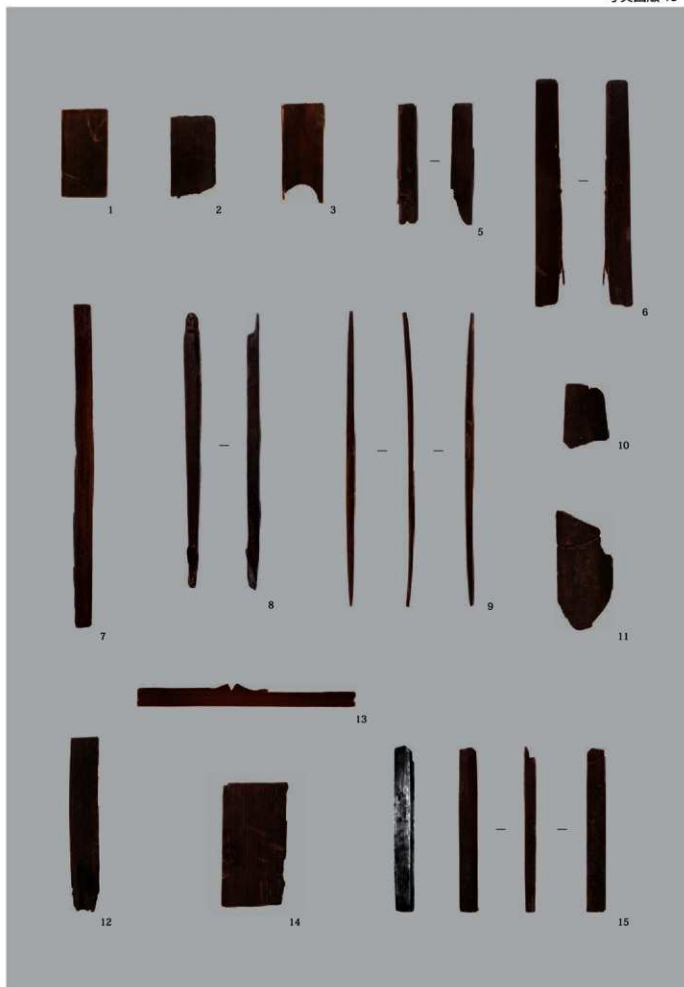
トレンチ東壁土層断面 (B-B')



焼物・自然遺物 (S=1/2、Noは実測図中の番号に同じ)



石器 (1～4 : S=4/5、5～8 : S=1/2、9 : S=1/4、Noは実測図中の番号と同じ)



木製品 (S=1/3、15 左端は赤外線撮影、№は実測図中の番号に同じ)



石積 A 西半西部における積石の状況



石積 A 西半東部における積石の状況



石積 B2 (奥)・B3 (手前) における積石の状況



4A2 トレンチ作業風景



辻誠一郎氏によるサンプリング指導



調査指導委員会



現地説明会



保護砂による埋め戻し



殿村遺跡第4次発掘調査団

報告書抄録

ふりがな	なかのけんまつもとしとのむらいせきだい4じはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	長野県松本市殿村遺跡第4次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	松本市文化財調査報告							
シリーズ番号	№215							
編者名	伊藤 愛、竹原 学、原田健司、宮島義和							
編集機関	松本市教育委員会							
所在地	〒390-8620 松本市丸の内3番7号 TEL 0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 松本市中山3738番地1 TEL 0263-86-4710)							
発行年月日	2014(平成26)年3月26日(平成25年度)							
ふりがな	ふりがな	コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村						
とのむらいせき 殿村遺跡	なかのけん 長野県 まつもとし 松本市 あいだ 会田 536外	20202	1023	36度 21分 12秒	137度 59分 34秒	20131001 ～ 20131226	120㎡	範囲内容確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
殿村遺跡	古代	縄紋	土坑	1基	土器・石器			
		古代	土坑 ピット	1基 3基	土師器・黒色土器・須恵器石 器(つき石)			
	中世	散布地 集落跡 社寺跡 城跡	ピット	10基	埴物：土師質土器(皿・内耳鍋)。			
			土坑 溝状遺構 柱痕 石列 土塁	2基 2基 2基 1基 1基	古瀬戸(三足甕) 石器：硯・砥石 木製品：馬形木製品、番串状 木製品・短冊状板・部材・端材・ 不明品			
近世以降		土坑 溝状遺構 不明遺構	3基 4基 3基		自然遺物：巻貝			
要約	殿村遺跡調査事業に係る中世を対象とした遺跡の範囲内容確認調査として、4回目の実施となるもの。1次調査で検出された中世の平場遺構東縁部(4A1トレンチ)からは、整地された3面の遺構面が検出され、最上面の1面からは平場東縁の土塁が、最下面の4面からは切岸と便所遺構と考えられる石積遺構が検出された。石積遺構は15世紀の築造で、1次調査で確認した平場前面の石積と同時期の所産である。内部からは番串状木製品や馬形木製品が出土した。平場遺構北西縁部(4A2トレンチ)では整地層は確認されず、遺構も希薄なことから縁辺部の状況を示すと考えられる。遺跡南東部に設定した4C1トレンチでも中世の整地層は確認されず、奈良・平安時代の須恵器を多含する包含層と当該期の遺構が検出された。須恵器生産に関わるものと推定される。							

殿村遺跡発掘調査報告書一覧

- 『殿村遺跡—第1次発掘調査概報—』 2011年3月発行
『殿村遺跡—第2次発掘調査報告書—』 2012年3月発行
『殿村遺跡—第3次発掘調査報告書—』 2013年3月発行
『殿村遺跡—第4次発掘調査報告書—』 2014年3月発行

松本市文化財調査報告No.215

長野県松本市

殿村遺跡

—第4次発掘調査報告書—

発行日 平成26年3月26日
発行者 松本市教育委員会
〒390-8620
長野県松本市丸の内3番7号
印刷 精美堂印刷株式会社
